

Dell OptiPlex 9030 All-In-One

オーナーズマニュアル

規制モデル：W09C
規制タイプ：W09C001



メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Copyright © 2014 Dell Inc. All rights reserved. この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell™、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2014 - 06

Rev. A00

目次

1 コンピューター内部の作業	5
コンピュータ内部の作業を始める前に.....	5
奨励するツール.....	6
コンピュータの電源を切る.....	6
コンピューター内部の作業を終えた後に.....	7
重要情報.....	7
2 コンポーネントの取り外しと取り付け	8
システムの概要.....	8
VESA スタンドの取り外し.....	9
VESA スタンドの取り付け.....	10
背面カバーの取り外し.....	10
背面カバーの取り付け.....	11
メモリの取り外し.....	11
メモリの取り付け.....	12
VESA マウントブラケットの取り外し.....	12
VESA マウントブラケットの取り付け.....	13
電源およびオンスクリーンディスプレイ(OSD)ボタンボードの取り外し.....	13
電源および OSD ボタンボードの取り付け.....	14
システム基板シールドの取り外し.....	14
システム基板シールドの取り付け.....	15
コンバータボードの取り外し.....	15
コンバーターボードの取り付け.....	16
コイン型電池の取り外し.....	17
コイン型バッテリーの取り付け.....	17
オプティカルドライブの取り外し.....	17
オプティカルドライブの取り付け.....	19
ハードドライブの取り外し.....	19
ハードドライブの取り付け.....	20
インテルジョンスイッチの取り外し.....	21
インテルジョンスイッチの取り付け.....	22
WLAN (ワイヤレスローカルエリアネットワーク) カードの取り外し.....	22
WLAN カードの取り付け.....	22
ヒートシンクアセンブリの取り外し.....	23
ヒートシンクアセンブリの取り付け.....	23
プロセッサファンの取り外し.....	23
プロセッサファンの取り付け.....	24


電源ユニットファンの取り外し.....	25
電源ユニットファンの取り付け.....	26
I/O ボードシールドの取り外し.....	26
I/O ボードシールドの取り付け.....	27
電源ユニット (PSU) の取り外し.....	28
電源ユニットの取り付け.....	29
プロセッサの取り外し.....	29
プロセッサの取り付け.....	30
スピーカの取り外し.....	30
スピーカの取り付け.....	31
システム基板の取り外し.....	32
システム基板のレイアウト.....	33
システム基板の取り付け.....	34
ディスプレイパネルの取り外し.....	34
ディスプレイパネルの取り付け.....	37
カメラの取り外し.....	38
カメラの取り付け.....	39
3 システムセットアップ.....	40
起動順序.....	40
ナビゲーションキー.....	40
セットアップユーティリティのオプション.....	41
BIOS のアップデート	52
システムパスワードおよびセットアップパスワード.....	53
システムパスワードおよびセットアップパスワードの割り当て.....	53
既存のシステムパスワードおよび / またはセットアップパスワードの削除または変更.....	54
4 仕様.....	56
5 デルへのお問い合わせ.....	61


コンピューター内部の作業


コンピューター内部の作業を始める前に


コンピューターの損傷を防ぎ、ユーザー個人の安全を守るため、以下の安全に関するガイドラインに従ってください。特記がない限り、本書に記載される各手順は、以下の条件を満たしていることを前提とします。


- コンピュータに付属の「安全に関する情報」を読んでいること。
- コンポーネントは交換可能であり、別売りの場合は取り外しの手順を逆順に実行すれば、取り付け可能であること。


 **警告:** すべての電源を外してから、コンピュータカバーまたはパネルを開きます。コンピュータ内部の作業が終わったら、カバー、パネル、ネジをすべて取り付けてから、電源に接続します。


 **警告:** コンピュータ内部の作業を始める前に、コンピュータに付属の「安全に関する情報」に目を通してください。安全に関するベストプラクティスについては、規制コンプライアンスに関するホームページ (www.dell.com/regulatory_compliance) を参照してください。

 **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

 **注意:** 静電気による損傷を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用するか、またはコンピュータの裏面にあるコネクタなどの塗装されていない金属面に定期的に触れて、静電気を身体から除去してください。


 **注意:** コンポーネントとカードは丁寧に取り扱いってください。コンポーネント、またはカードの接触面に触らないでください。カードは端、または金属のマウンティングブラケットを持ってください。プロセッサなどのコンポーネントはピンではなく、端を持ってください。

 **注意:** ケーブルを外す場合は、ケーブルのコネクタかプルタブを持って引き、ケーブル自体を引っ張らないでください。コネクタにロックングタブが付いているケーブルもあります。この場合、ケーブルを外す前にロックングタブを押さえてください。コネクタを引き抜く場合、コネクタピンが曲がらないように、均一に力をかけてください。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが同じ方向を向き、きちんと並んでいることを確認してください。


 **メモ:** お使いのコンピュータの色および一部のコンポーネントは、本書で示されているものと異なる場合があります。

コンピューターの損傷を防ぐため、コンピューター内部の作業を始める前に、次の手順を実行してください。

1. コンピュータのカバーに傷がつかないように、作業台が平らであり、汚れていないことを確認します。
2. コンピューターの電源を切ります（「コンピューターの電源を切る」を参照）。

 **注意:** ネットワークケーブルを外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次にケーブルをネットワークデバイスから外します。

3. コンピュータからすべてのネットワークケーブルを外します。
4. コンピュータおよび取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから外します。
5. システムのコンセントが外されている状態で、電源ボタンをしばらく押して、システム基板の静電気を除去します。
6. カバーを取り外します。


 **注意:** コンピュータの内部に触れる前に、コンピュータの裏面など塗装されていない金属面に触れ、静電気を除去します。作業中は定期的に塗装されていない金属面に触れ、内部コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を放出してください。




奨励するツール

この文書で説明する操作には、以下のツールが必要です。


- 細めのマイナスドライバー
- プラスドライバー
- 小型のプラスチックスクライブ

コンピュータの電源を切る

 **注意:** データの損失を防ぐため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルはすべて保存して閉じ、実行中のプログラムはすべて終了してください。

1. オペレーティングシステムをシャットダウンします。
 - Windows 8.1 の場合：
 - タッチパネル入力を有効にするデバイスの使用：
 - a. 画面の右端からスワイプ入力し、チャームメニューを開き、**Settings**（設定）を選択します。
 - b. 電源アイコンを  続いて **Shut down**（シャットダウン）を選択します。
 - マウスの使用：
 - a. 画面の右上隅をポイントし、**Settings**（設定）をクリックします。
 - b. 電源アイコンを  **Shut down**（シャットダウン）を選択します。
 - Windows 7 の場合：
 1. **Start**（スタート）  クリックします。
 2. **Shut Down**（シャットダウン）をクリックします。

または

1. **Start**（スタート）  クリックします。

2. 下に示すように **Start** (スタート) メニューの右下隅の矢印をクリックして、**Shut Down** (シ



ャウウダウン)


クリックします。

2. コンピュータと取り付けられているデバイスすべての電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンしてもコンピュータとデバイスの電源が自動的に切れない場合、電源ボタンを 6 秒間押したままにして電源を切ります。

コンピューター内部の作業を終えた後に



交換 (取り付け) 作業が完了したら、コンピューターの電源を入れる前に、外付けデバイス、カード、ケーブルなどが接続されていることを確認してください。

1. カバーを取り付けます。

 **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピューターに差し込みます。

2. 電話線、またはネットワークケーブルをコンピューターに接続します。
3. コンピューター、および取り付けられているすべてのデバイスをコンセントに接続します。
4. コンピューターの電源を入れます。
5. 必要に応じて Dell 診断を実行して、コンピューターが正しく動作することを確認します。

重要情報

-  **メモ:** ほこりの多い、高温、または湿気の多い所でタッチスクリーンを使用しないでください。
-  **メモ:** 急激な温度変化によりガラス画面の内面が結露することがありますが、すぐに消えるため通常の使用に影響はありません。

コンポーネントの取り外しと取り付け

このセクションには、お使いのコンピューターからコンポーネントを取り外し、取り付ける手順についての詳細な情報が記載されています。

システムの概要

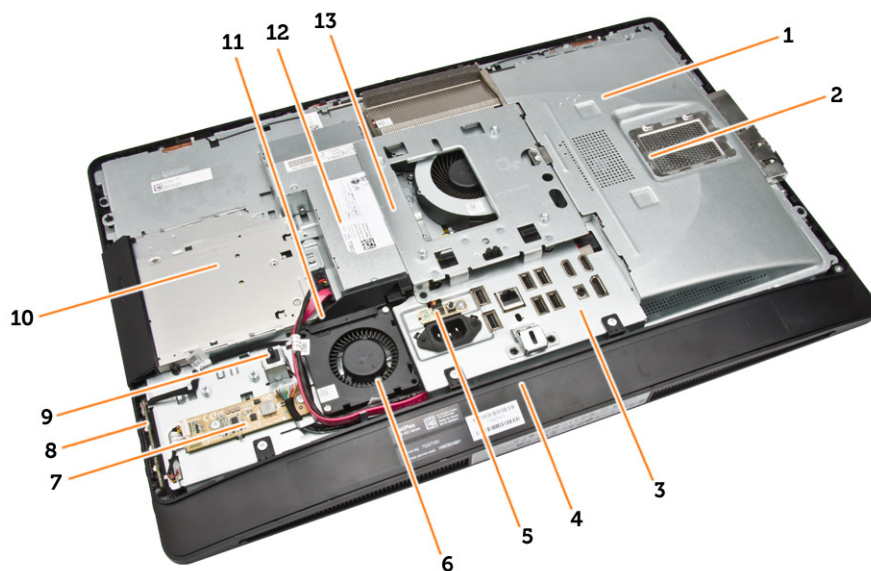


図 1. 内面図 -1

1. システム基板シールド
2. メモリシールド
3. I/O ボードシールド
4. スピーカカバー
5. 電源装置診断ボード
6. 電源ユニットファン
7. コンバータボード
8. 電源とオンスクリーンディスプレイ (OSD) ボタンボード
9. インترلージョンスイッチ
10. オプティカルドライブ
11. 電源ファンブラケット
12. 電源ユニット
13. VESA マウントブラケット

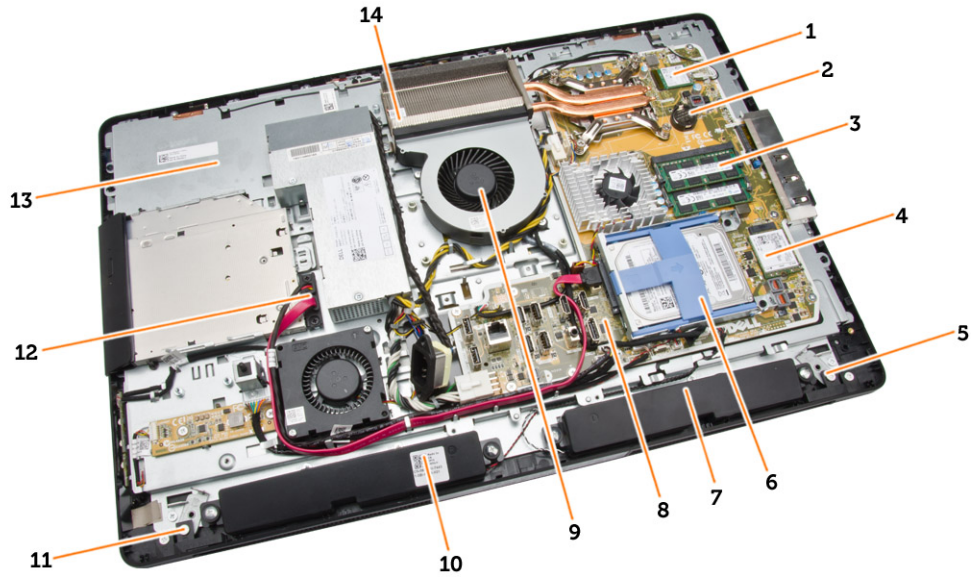
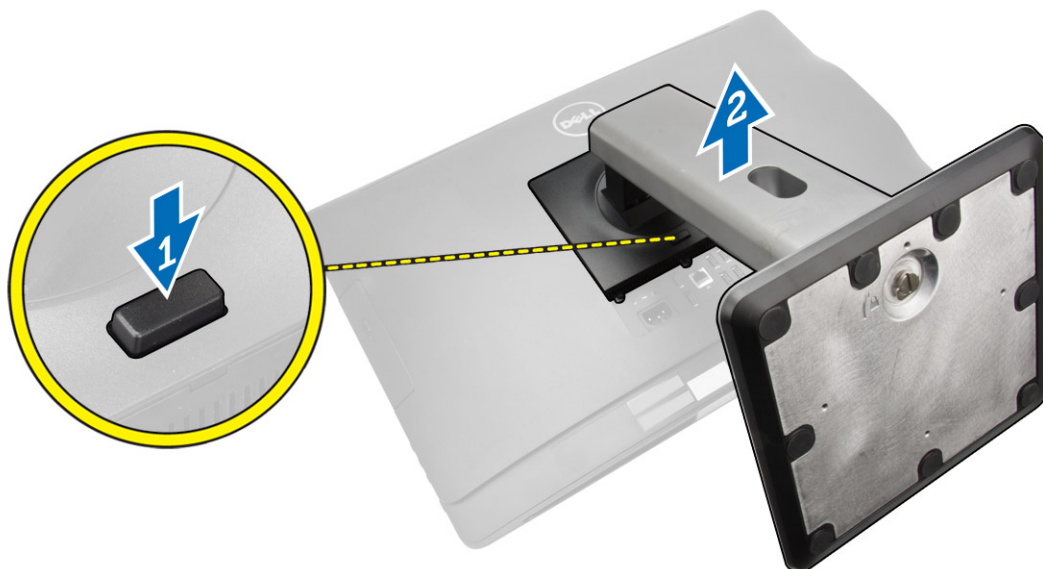


図 2. 内面図 -2

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. プロセッサ | 2. コイン型電池 |
| 3. メモリモジュール | 4. WLAN カード |
| 5. 左側のロックラッチ | 6. ハードドライブ |
| 7. スピーカ | 8. システム基板 |
| 9. プロセッサファン | 10. スピーカ |
| 11. 右側のロックラッチ | 12. オプティカルドライブケーブル |
| 13. ディスプレイブラケット | 14. ヒートシンクアセンブリ |

VESA スタンドの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. コンピューターのディスプレイの面を下に向けて平坦な面に置きます。
3. VESA カバーのボタンを押し、スタンドを外します。



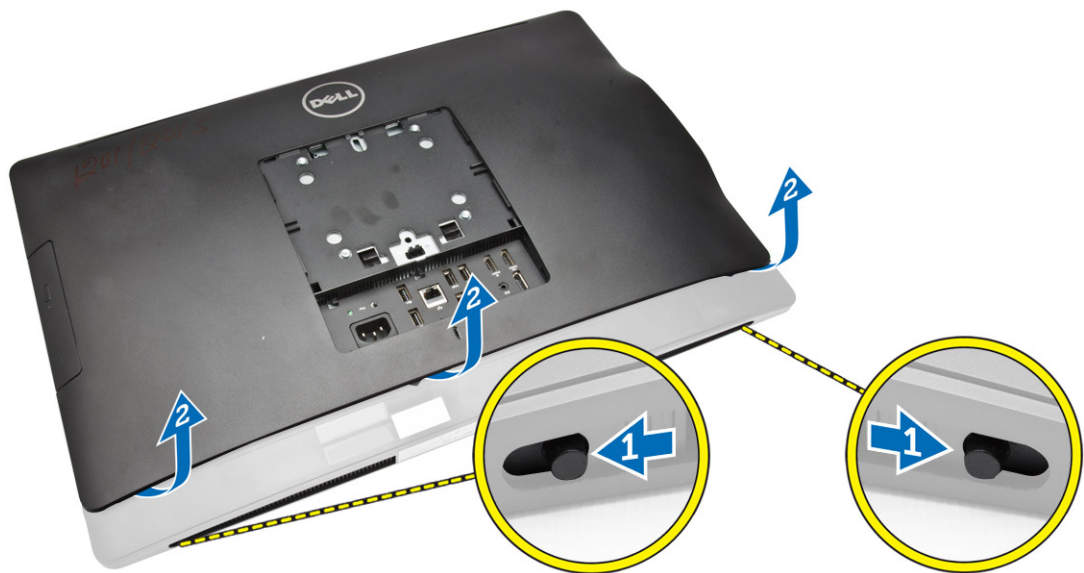
4. VESA スタンドを持ち上げて、背面カバーから取り外します。

VESA スタンドの取り付け

1. VESA スタンドをコンピュータの背面に合わせてセットします。
2. VESA カバーをコンピュータにセットしてカチッと所定の位置に収まるまで押し込みます。
3. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

背面カバーの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. VESA スタンドを取り外します。
3. 背面カバーをコンピュータに固定している両側のラッチを外します。背面カバーを持ち上げて、コンピュータから取り外します。

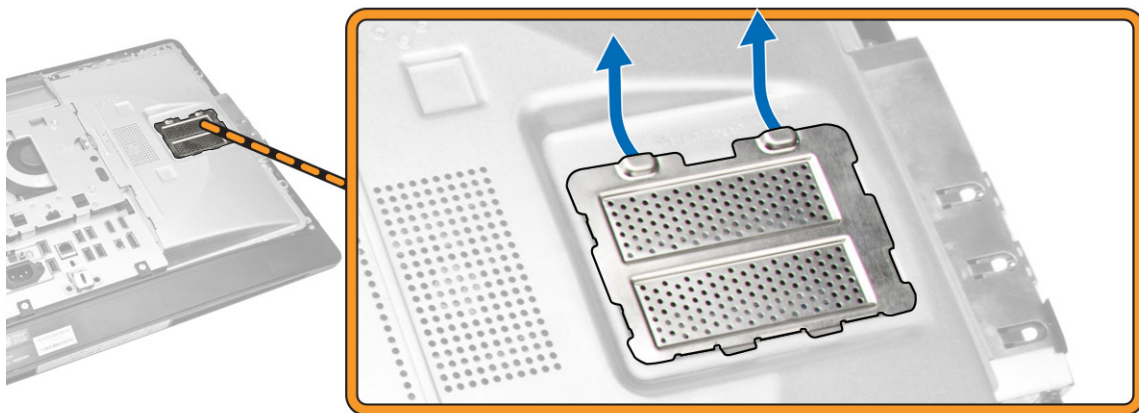


背面カバーの取り付け

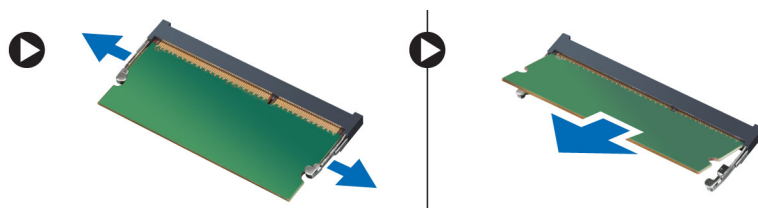
1. 背面カバーをコンピュータの元の位置に合わせます。
2. 両側のロックを押さえて、背面カバーをコンピュータに固定します。
3. VESA スタンドを取り付けます。
4. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

メモリの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
3. メモリシールドを外側に持ち上げます。



4. メモリモジュールが飛び出すまで、メモリモジュールから固定クリップを引き出します。メモリモジュールを持ち上げて、コネクタから取り外します。

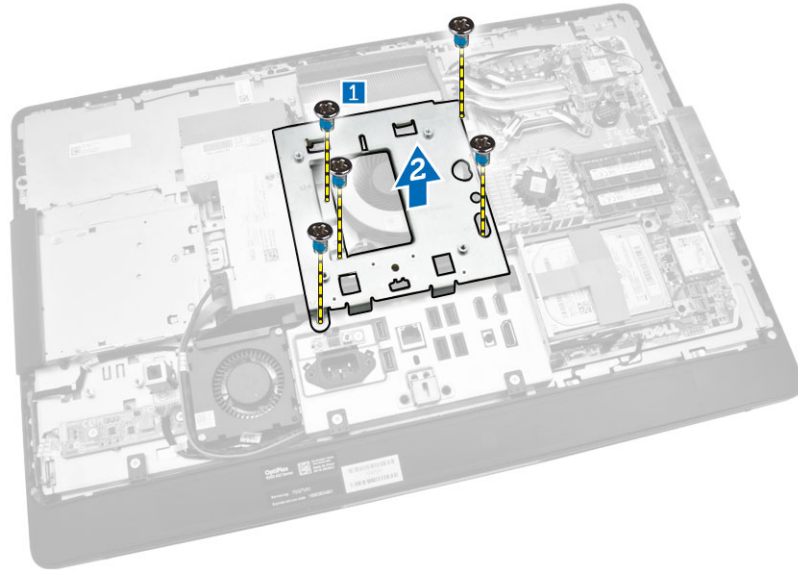


メモリの取り付け

1. メモリカードの切り込みをシステム基板コネクタのタブの位置に合わせます。
2. リリースタブのバネが戻ってメモリモジュールを所定の位置に固定させるまで、メモリモジュールを押し下げます。
3. メモリシールドを所定の位置に戻します。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 背面カバー
 - b. VESA スタンド
5. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

VESA マウントブラケットの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
3. VESA マウントブラケットをコンピューターに固定しているネジを外します。ブラケットを持ち上げながらコンピューターから取り外します。

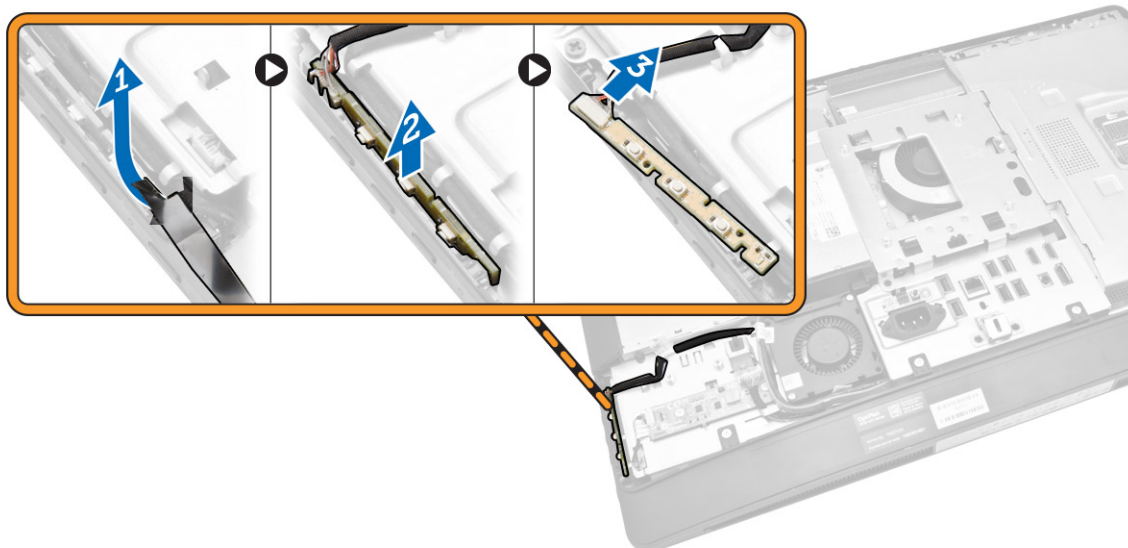


VESA マウントブラケットの取り付け

1. ブラケットをコンピューターの背面に合わせセットします。
2. VESA マウントブラケットをコンピュータに固定するネジを締めます。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 背面カバー
 - b. VESA スタンド
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」 の手順に従います。

電源およびオンスクリーンディスプレイ(OSD)ボタンボードの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」 の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
3. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
 - a. 電源と OSD ボタンボードをコンピュータに固定しているテープを剥がします [1]。
 - b. 電源と OSD ボタンボードをシャーシから持ち上げます [2]。
 - c. 電源と OSD ボタンボードからケーブルを外し、コンピュータから取り外します [3]。

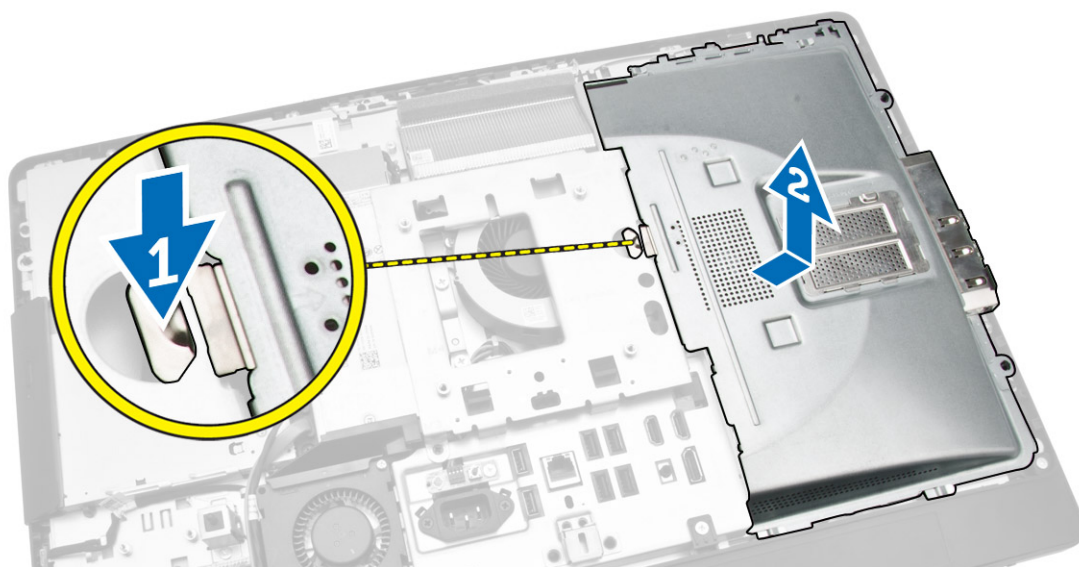


電源および OSD ボタンボードの取り付け

1. 電源と OSD ボタンボードを所定のスロットに差し込み、テープを貼って固定します。
2. 電源と OSD ボタンボードにケーブルを接続します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 背面カバー
 - b. VESA スタンド
4. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

システム基板シールドの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
3. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
 - a. 固定タブを下に押し、システム基板シールドをシャーシのスロットから外します [1]。
 - b. システム基板シールドをスライドさせ、持ち上げてコンピュータから取り外します [2]。

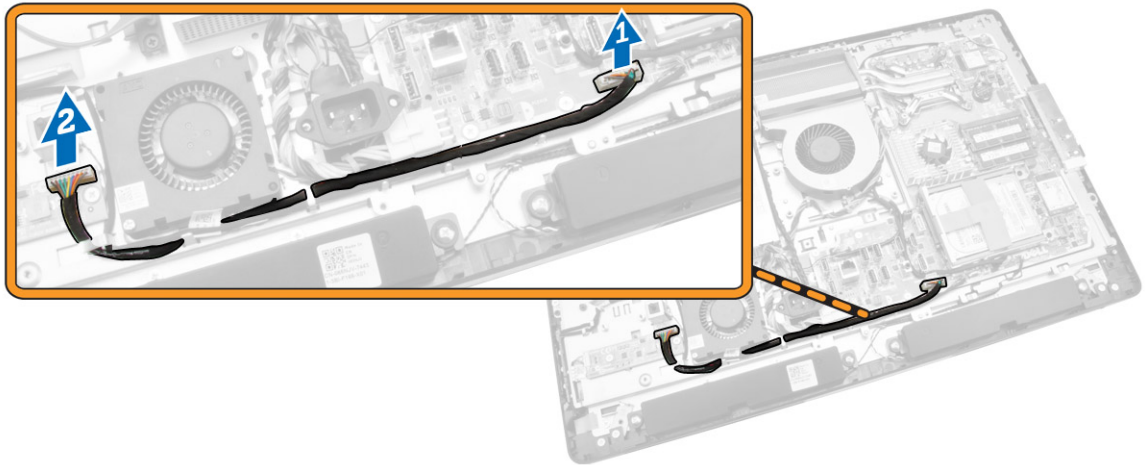


システム基板シールドの取り付け

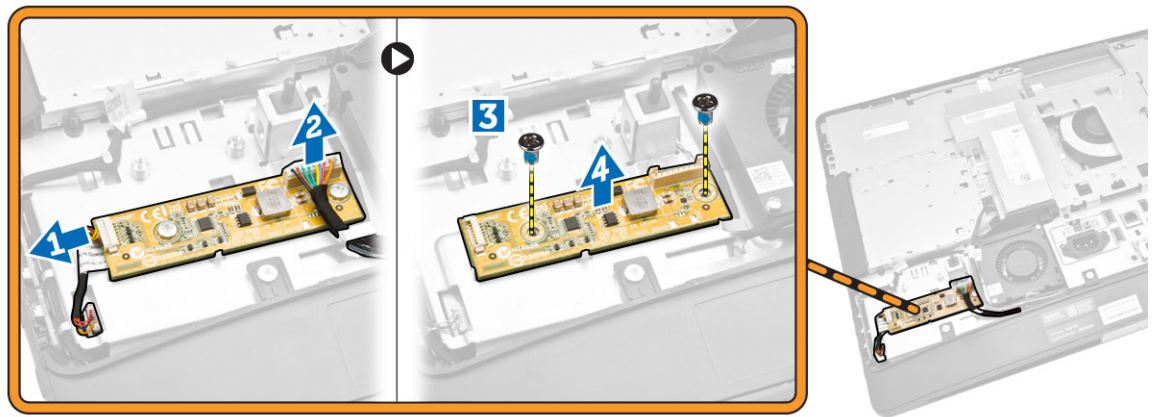
1. システム基板シールドをコンピュータの背面に合わせてセットします。
2. システム基板シールドをコンピュータに固定するネジを締めます。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. VESA マウントブラケット
 - b. 背面カバー
 - c. VESA スタンド
4. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

コンバータボードの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
3. コンバータボードからケーブルを外します。



4. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
- a. ディスプレイバックライトケーブルをコンバータボードのコネクタから外します [1]。
 - b. コンバータボードケーブルをコンバータボードのコネクタから外します[2]。
 - c. コンバータボードをコンピュータに固定しているネジを外します[3]。
 - d. コンバータボードを持ち上げて、コンピュータから取り外します[4]。

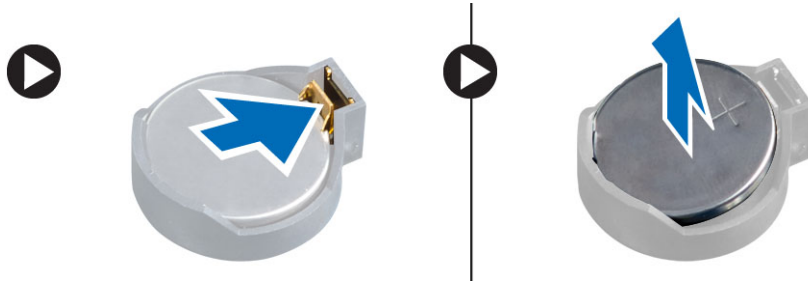


コンバータボードの取り付け

1. コンバータボードを所定の位置に置きます。
2. ネジを締めてコンバータボードをコンピュータに固定します。
3. コンバータボードケーブルとディスプレイバックライトケーブルをコンバータボードのコネクタに接続します。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 背面カバー
 - b. VESA スタンド
5. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

コイン型電池の取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. システム基板シールド
3. リリースラッチを押してバッテリーから離します。バッテリーがソケットから飛び出します。コイン型バッテリーを持ち上げてコンピューターから取り外します。

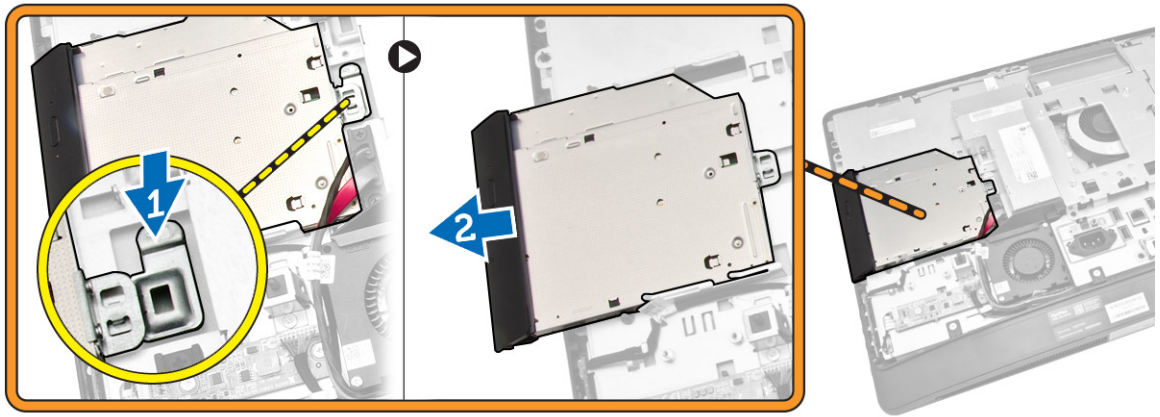


コイン型バッテリーの取り付け

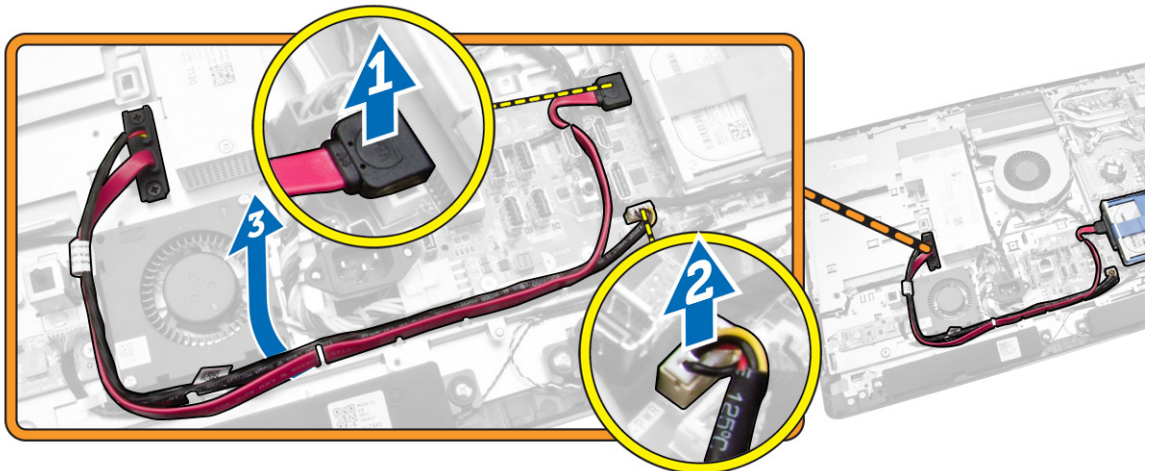
1. コイン型バッテリーをシステム基板のスロットに入れます。
2. リリースラッチのバネが所定の位置に戻るまで、コイン型バッテリーを押し下げて固定します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. システム基板シールド
 - b. ベースカバー
 - c. VESA スタンド
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

オプティカルドライブの取り外し

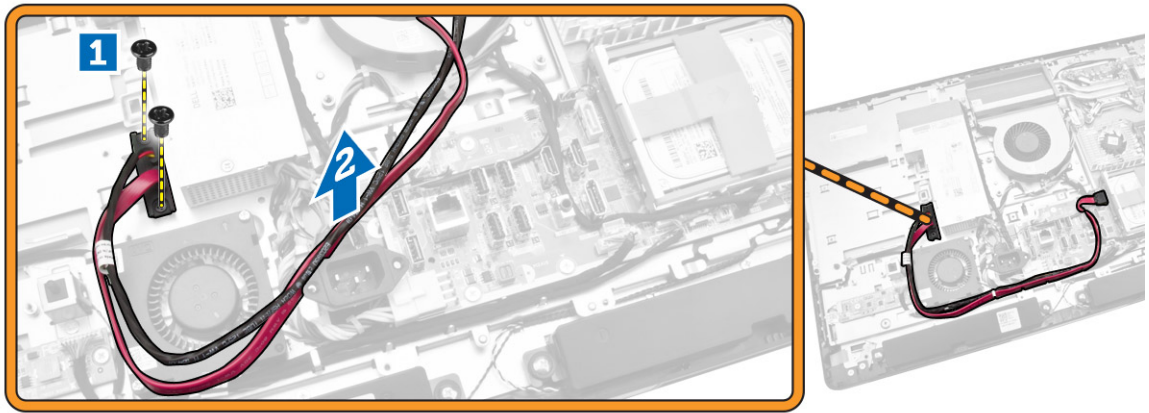
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
3. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
 - a. 固定タブを下に押し、オプティカルドライブを外します [1]。
 - b. オプティカルドライブを外側にスライドさせてコンピューターから取り外します [2]。



4. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
- a. オプティカルドライブケーブルをシステム基板のコネクタから外します[1] [2]。
 - b. コンピュータの切込みからケーブルを抜き取ります [3]。



5. オプティカルドライブケーブルをシステムに固定しているネジを外し、切込みからケーブルを抜き取ります。

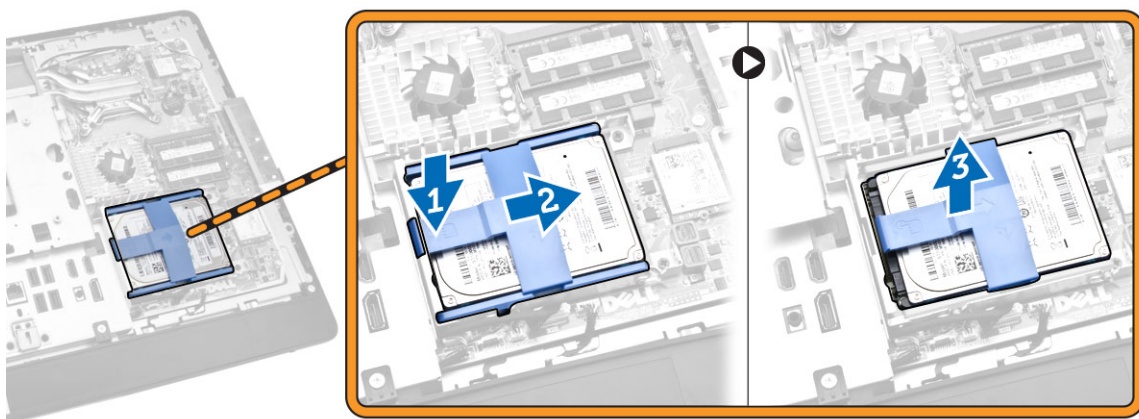


オプティカルドライブの取り付け

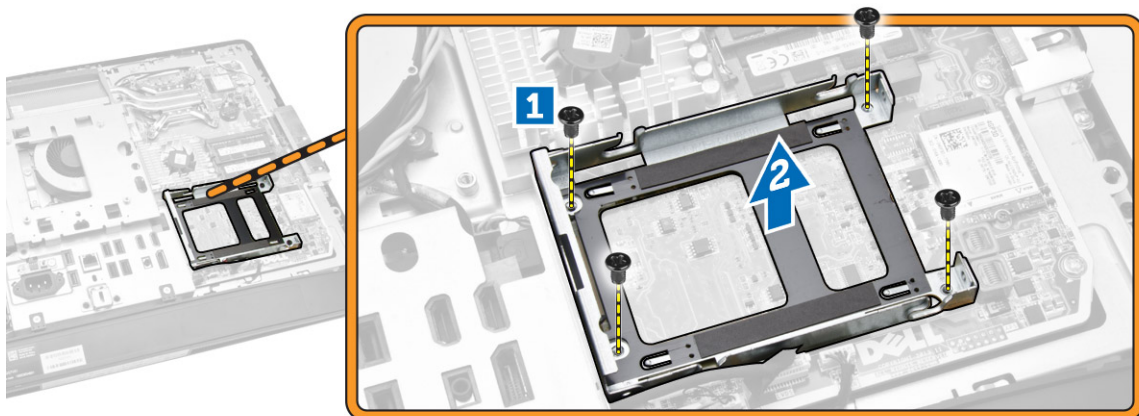
1. オプティカルドライブをスロットの位置に合わせて差し込みます。
2. オプティカルドライブケーブルを接続します。
3. オプティカルドライブをロックしてコンピュータに固定します。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 背面カバー
 - b. VESA スタンド
5. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

ハードドライブの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
3. ハードドライブブラケットの切り込みからケーブルを外します。ハードドライブからハードドライブケーブルを外します。
4. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
 - a. ハードドライブブラケットを押し込みます [1]。
 - b. ハードドライブアセンブリをスライドさせてハードドライブケースから外します [2]。
 - c. ハードドライブアセンブリを持ち上げてコンピュータから取り外します [3]。



5. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
- a. ハードドライブケースをコンピュータに固定しているネジを外します[1]。
 - b. ハードドライブケースを持ち上げてコンピュータから取り外します[2]。



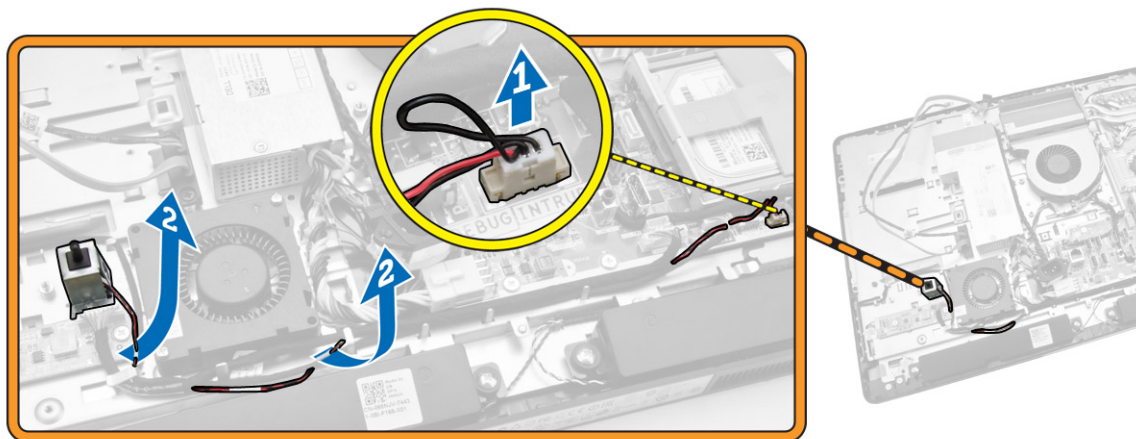
ハードドライブの取り付け

1. 3.5 インチのハードドライブの場合、ハードドライブをハードドライブブラケットにスライドさせます。
2. 2.5 インチのハードドライブの場合、ハードドライブケースをハードドライブに固定するネジを締めます。ハードドライブをハードドライブブラケットにスライドさせます。
3. ハードドライブケースをコンピュータに合わせてセットします。
4. ハードドライブケースをコンピュータに固定するネジを締めます。
5. ハードドライブブラケットをハードドライブケースに合わせてセットします。
6. ハードドライブケーブルをハードドライブに接続します。ハードドライブブラケットの切り込みにケーブルを装着します。
7. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. VESA マウントブラケット
 - b. 背面カバー

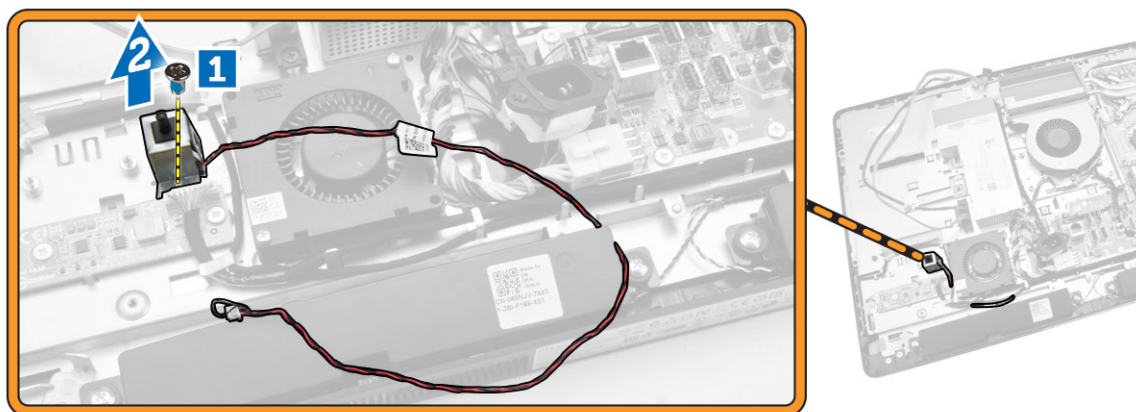
- c. VESA スタンド
- 8. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

イントルージョンスイッチの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
3. イントルージョンスイッチをシステム基板のコネクタから外します。ケーブルをコンピュータの切込みから抜き取ります。



4. イントルージョンスイッチをシャーシに固定しているネジを外します。イントルージョンスイッチを持ち上げて、コンピュータから取り外します。

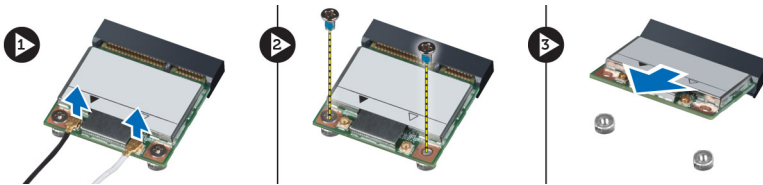


イントラージョンスイッチの取り付け

1. イントラージョンスイッチをコンピューターにセットし、それをシャーシに固定するネジを締めます。
2. シャーシの切り込みに沿ってケーブルを通し、イントラージョンスイッチケーブルをシステム基板のコネクタに接続します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. システム基板シールド
 - b. VESA マウントブラケット
 - c. 背面カバー
 - d. VESA スタンド
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」 の手順に従います。

WLAN (ワイヤレスローカルエリアネットワーク) カードの取り外し

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」 の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
3. WLAN ケーブルを取り外します。WLAN カードをシステム基板に固定しているネジを外します。コネクタから WLAN カードを取り外します。

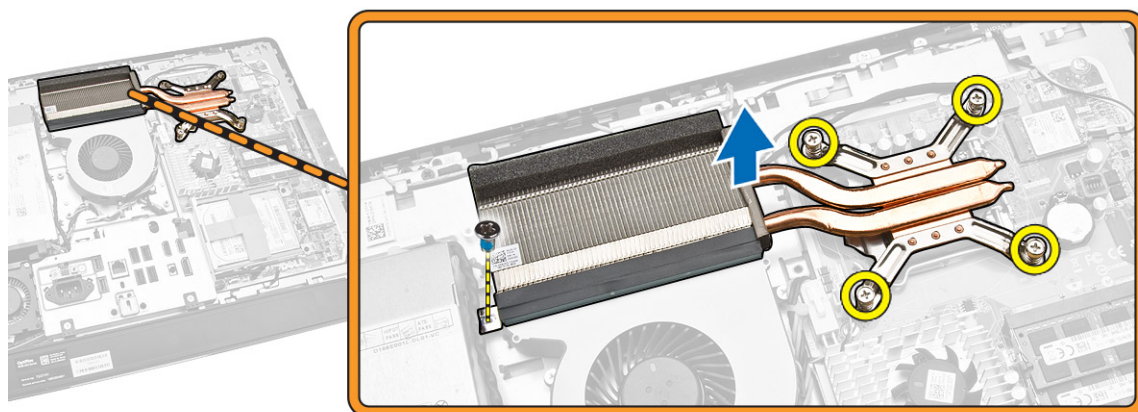


WLAN カードの取り付け

1. WLAN カードをコネクタに合わせセットします。
2. WLAN カードをシステム基板に固定するネジを締めます。
3. WLAN ケーブルを接続します。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. システム基板シールド
 - b. VESA マウントブラケット
 - c. 背面カバー
 - d. VESA スタンド
5. 「コンピューター内部の作業の後に」 の手順に従います。

ヒートシンクアセンブリの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
3. ヒートシンクモジュールをシャーシに固定しているネジを外します。ヒートシンクアセンブリを持ち上げて、コンピュータから取り外します。



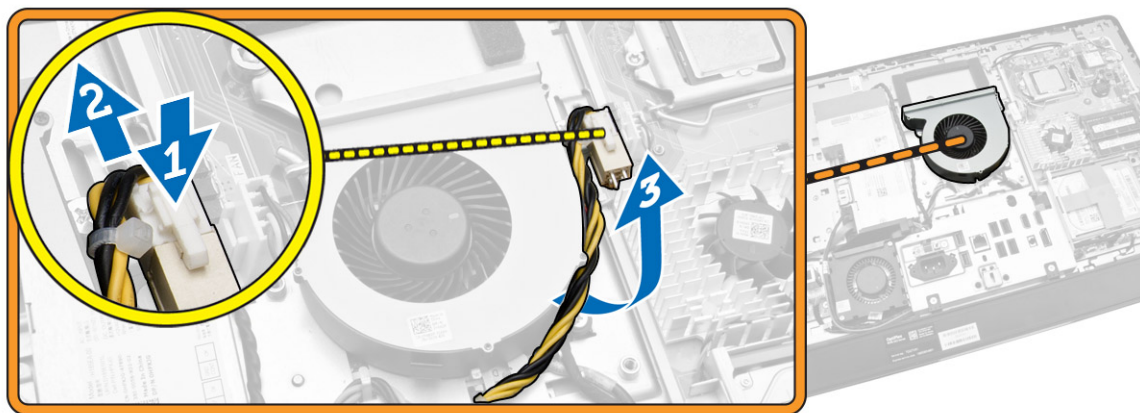
ヒートシンクアセンブリの取り付け

1. ヒートシンクアセンブリをコンピュータに合わせてセットします。
2. ヒートシンクアセンブリをシャーシに固定するネジを締めます。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. システム基板シールド
 - b. VESA マウントブラケット
 - c. 背面カバー
 - d. VESA スタンド
4. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

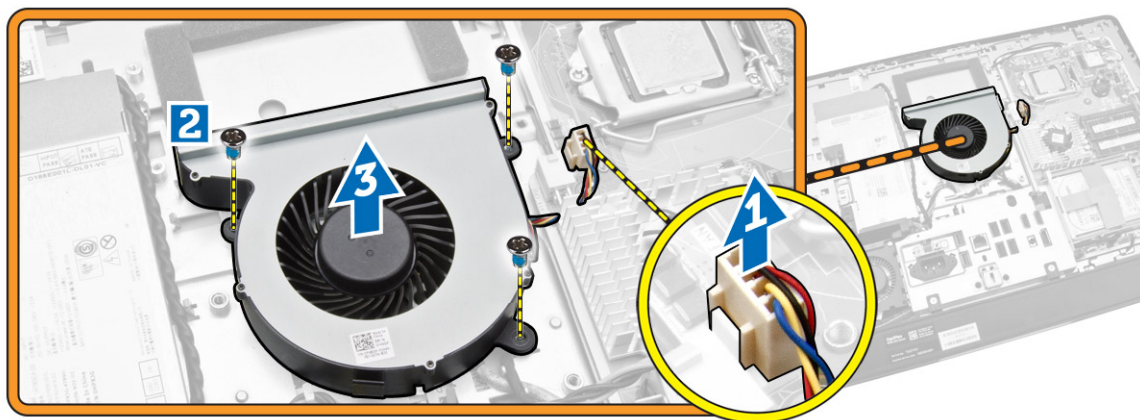
プロセッサファンの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド

3. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
- システム基板のコネクタから電源ユニットケーブルを外します [1][2]。
 - ケーブルをコンピュータのフックから抜き取ります [3]。



4. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
- システム基板のコネクタからプロセッサファンケーブルを外します [1]。
 - プロセッサファンをシステム基板に固定しているネジを外します [2]。
 - プロセッサファンを持ち上げて、コンピュータから取り外します [3]。



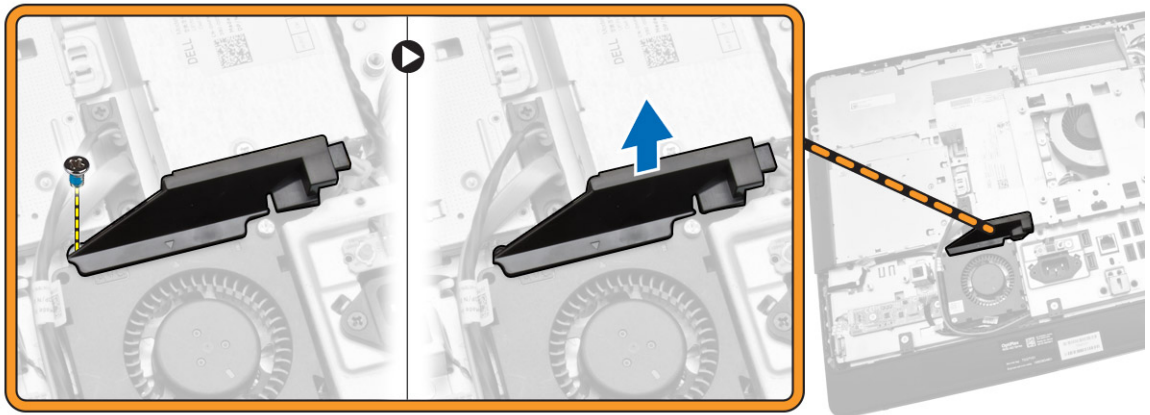
プロセッサファンの取り付け

- プロセッサをコンピュータにセットし、プロセッサファンをシステム基板に固定するネジを締めます。
- システム基板上的のコネクタにプロセッサファンケーブルを接続します。
- 電源ユニットケーブルをシステム基板のコネクタに接続し、ケーブルをコンピュータのフックに通します。
- 次のコンポーネントを取り付けます。
 - システム基板シールド
 - VESA マウントブラケット

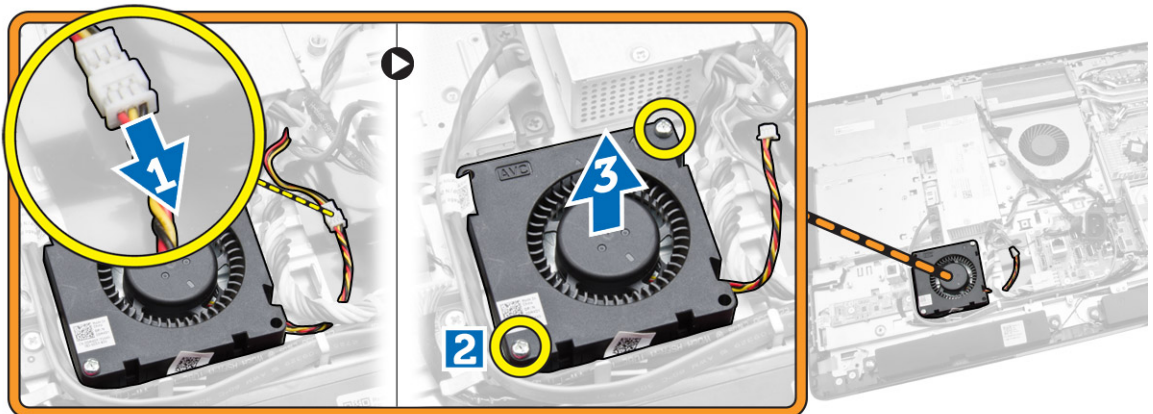
- c. 背面カバー
 - d. VESA スタンド
5. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

電源ユニットファンの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
3. ファンダクトをシャーシに固定しているネジを外します。ファンブラケットを持ち上げてコンピュータから取り外します。



4. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
- a. 電源ユニットファンケーブルをシステム基板のコンネクタから外します[1]。
 - b. 電源ユニットファンをシャーシに固定しているネジを外します[2]。
 - c. 電源ユニットファンを持ち上げて、コンピュータから取り外します[3]。

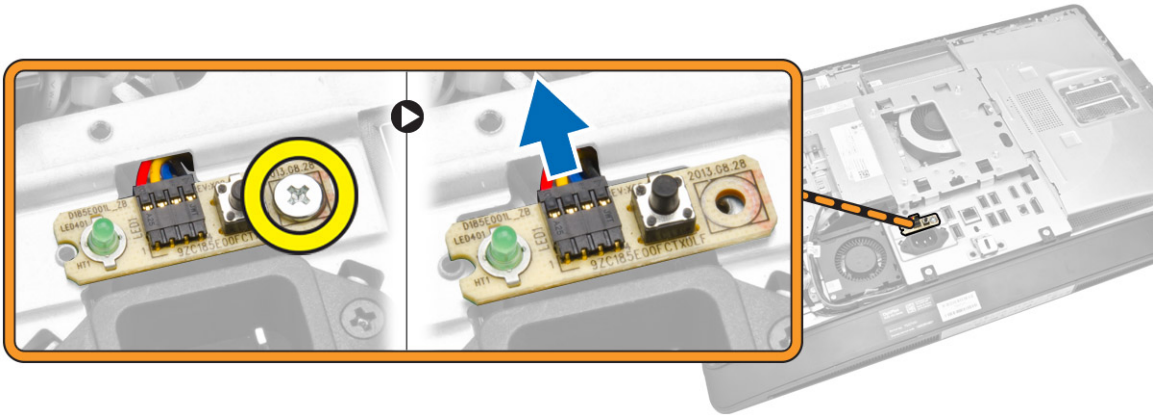


電源ユニットファンの取り付け

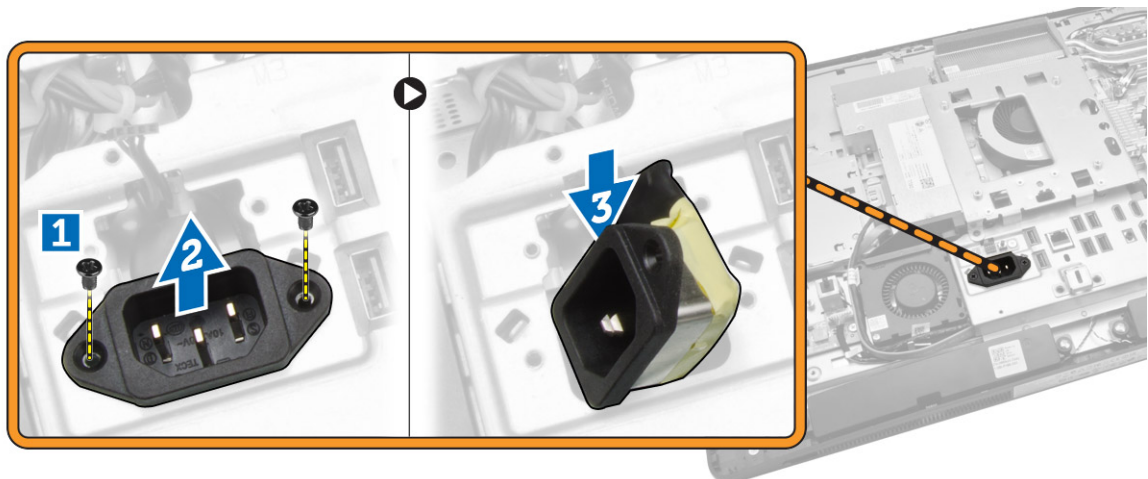
1. 電源ユニットファンをコンピュータにセットし、ネジを締めてシャーシに固定します。
2. ファンダクトをコンピュータに合わせてセットします。
3. ファンダクトをシャーシに固定するネジを締めます。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. システム基板シールド
 - b. VESA マウントブラケット
 - c. 背面カバー
 - d. VESA スタンド
5. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

I/O ボードシールドの取り外し

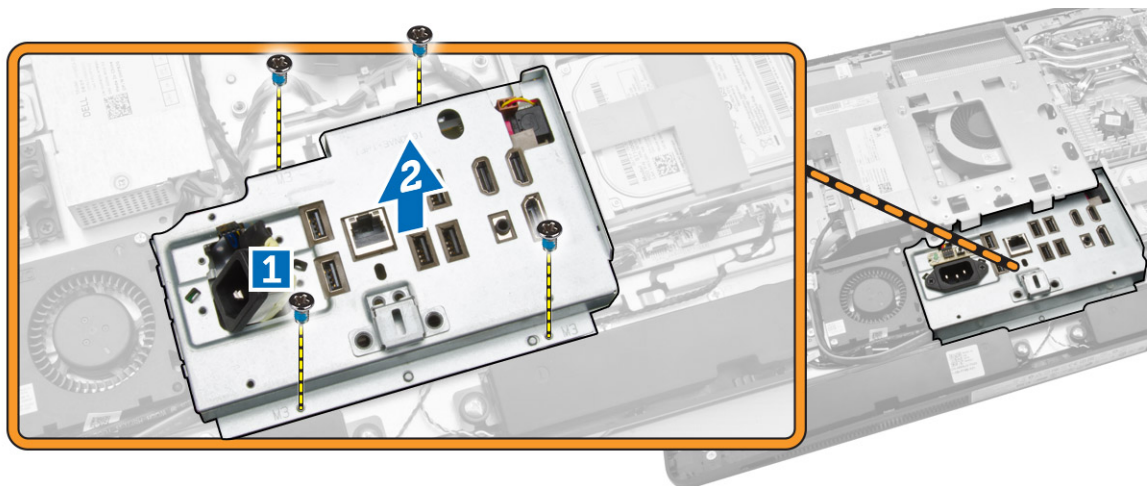
1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. 電源ユニットファン
 - e. システム基板シールド
 - f. スピーカカバー
3. 電源ボタン基板を I/O ボードシールドに固定しているネジを外します。電源ボタン基板からケーブルを外し、I/O ボードシールドから取り出します。



4. 電源コネクタを I/O ボードシールドに固定しているネジを外します。



5. I/O ボードシールドをシャーシに固定しているネジを外します。電源コネクタを緩め、ソケットに押し下げます。入出力 (I/O) ボードシールドを裏返し、コンピュータから取り外します。



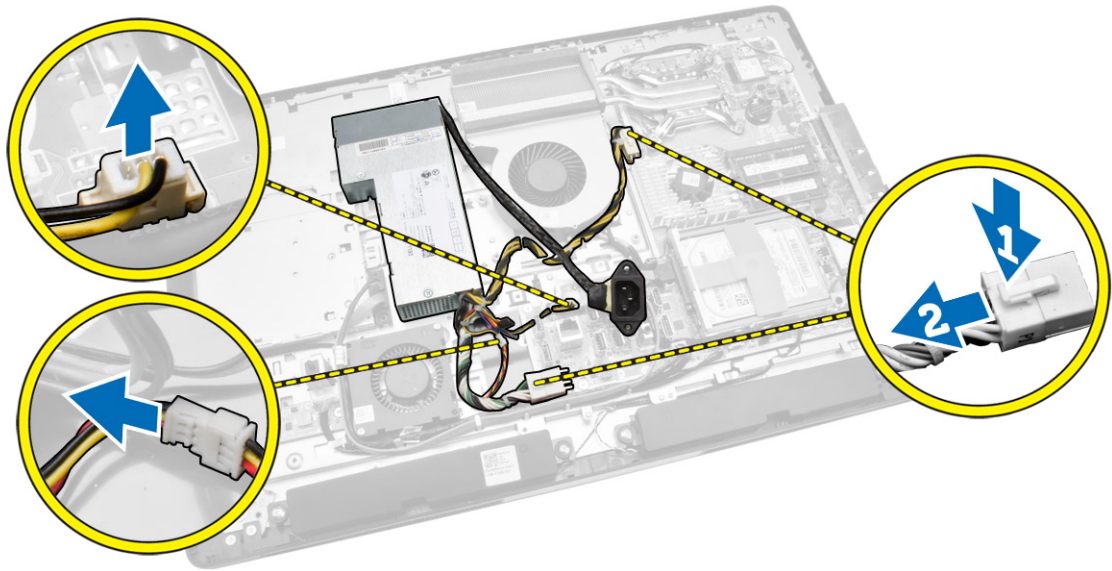
I/O ボードシールドの取り付け

1. I/O ボードシールドをコンピュータにセットします。
2. 電源コネクタを通し、ソケットに固定します。I/O ボードシールドをシャーシに固定するネジを締めます。
3. 電源コネクタを I/O ボードシールドに固定するネジを締めます。
4. 電源ボタン基板を I/O ボードシールドに固定するネジを締めます。
5. コンピュータに I/O パネルをセットします。
6. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 電源ユニットファン
 - b. システム基板シールド
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. 背面カバー
 - e. スピーカカバー
 - f. VESA スタンド

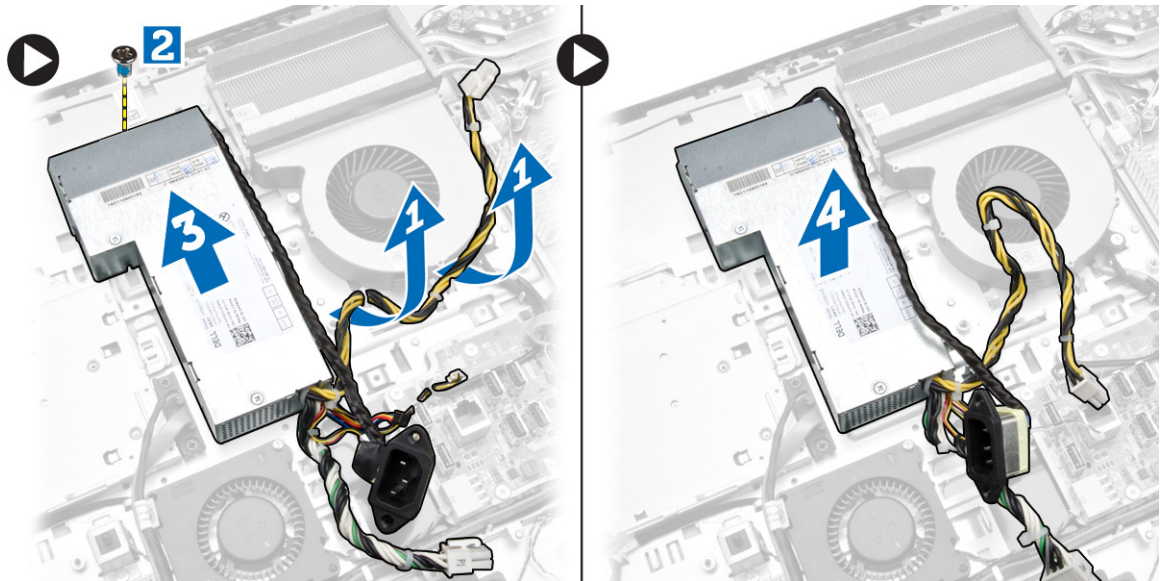
7. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

電源ユニット (PSU) の取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
 - e. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - f. 電源ユニットファン
3. システム基板のコネクタから電源ユニットケーブルを外します。



4. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
 - a. コンピュータのフックからケーブルを抜き取ります [1]。
 - b. 電源ユニットをシャーシに固定しているネジを外します[2]。
 - c. 上方向にスライドさせ電源ユニットをシャーシから外します [3]。
 - d. 電源ユニットを持ち上げて、コンピュータから取り外します[4]。



電源ユニットの取り付け

1. 電源ユニットをコンピュータにセットします。
2. ネジを締めて電源ユニットをシャーシに固定します。
3. ケーブルをコンピュータのフックに通します。
4. 電源ユニットケーブルをシステム基板上のコネクタに接続します。
5. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 電源ユニットファン
 - b. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - c. システム基板シールド
 - d. VESA マウントブラケット
 - e. 背面カバー
 - f. VESA スタンド
6. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

プロセッサの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
 - e. ヒートシンクアセンブリ
3. リリースレバーを押し下げてから、外側に移動させてリリースレバーを固定している固定フックから外します。プロセッサカバーを持ち上げ、ソケットからプロセッサを取り外します。

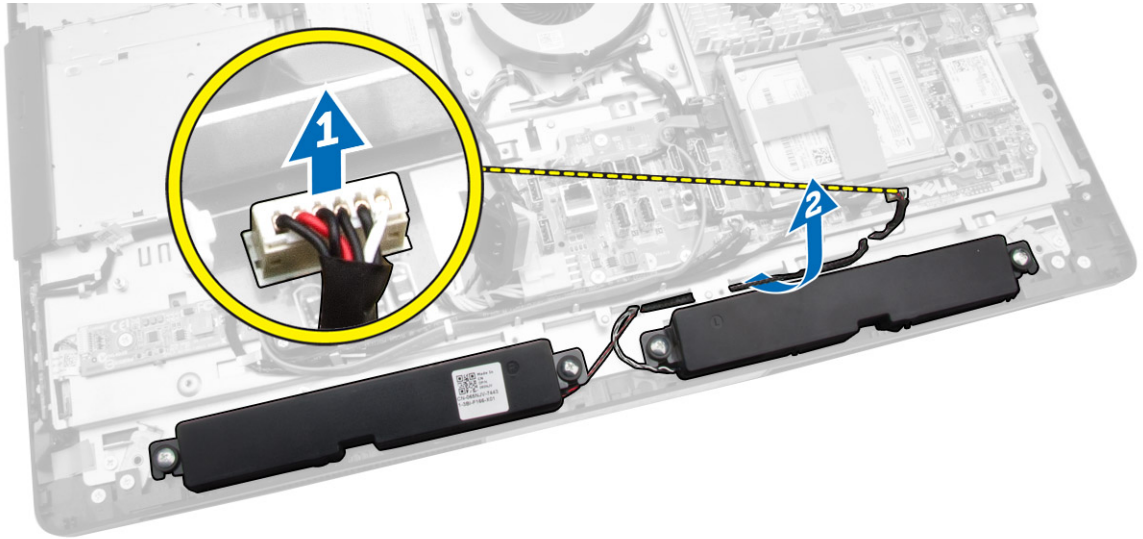


プロセッサの取り付け

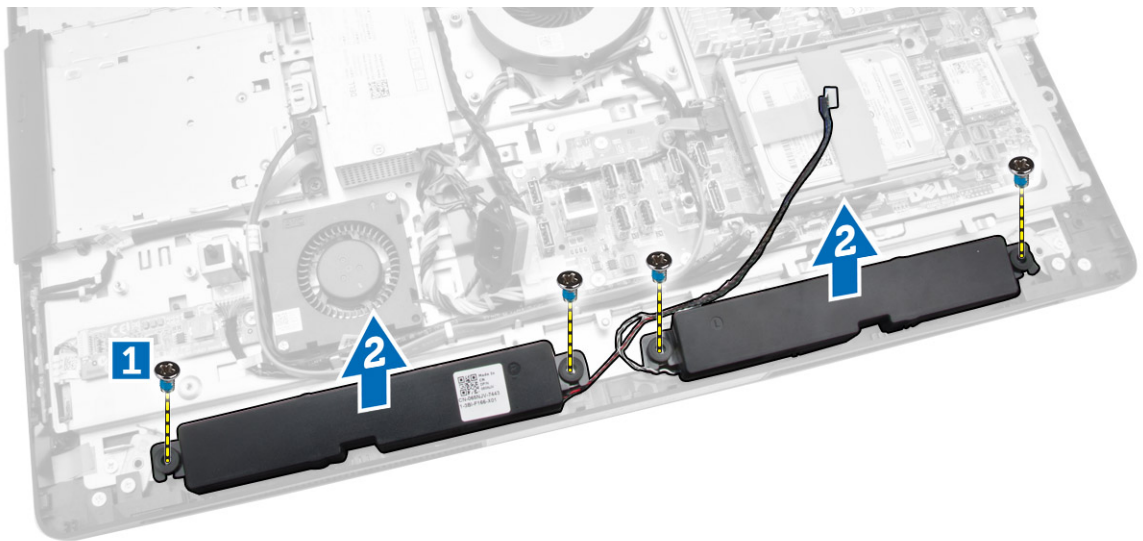
1. プロセッサをプロセッサソケットに差し込みます。プロセッサが正しい位置に設置されていることを確認します。
2. リリースレバーを押し下げ、内側に移動させて固定フックで固定します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. ヒートシンクアセンブリ
 - b. システム基板シールド
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. 背面カバー
 - e. VESA スタンド
4. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

スピーカの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
 - e. I/O ボードシールド
 - f. スピーカカバー
3. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
 - a. スピーカケーブルをシステム基板のコネクタから外します [1]。
 - b. ケーブルを切込みから抜き取ります [2]。



4. スピーカをシャーシに固定しているネジを外します。スピーカを持ち上げてコンピュータから取り外します。



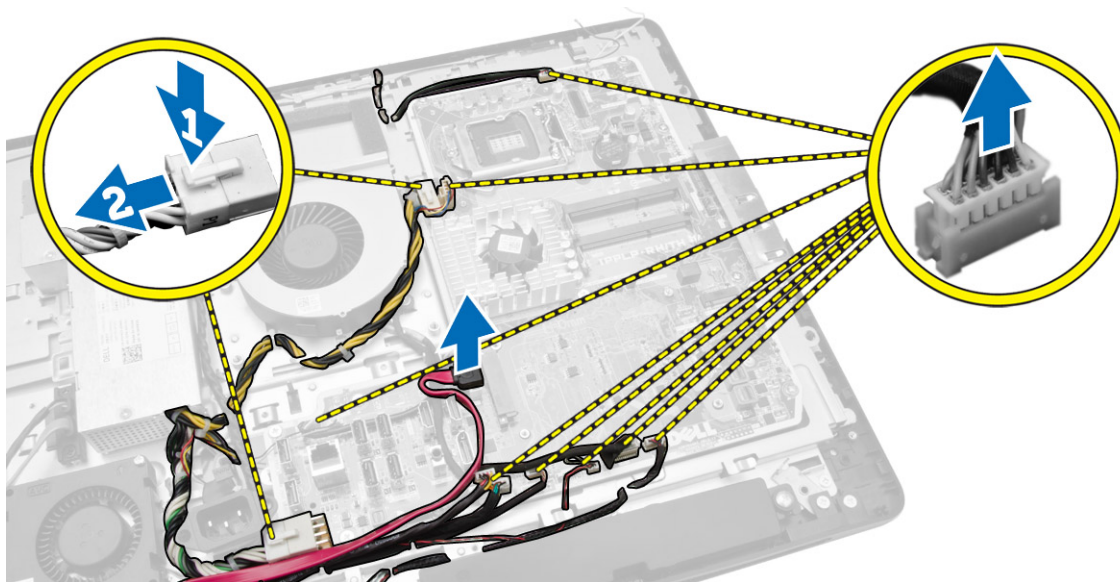
スピーカの取り付け

1. スピーカをシャーシにセットして合わせます。スピーカをシャーシに固定するネジを締めます。
2. ケーブルを切込みに通して、スピーカケーブルをシステム基板に接続します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. システム基板シールド
 - b. I/O ボードシールド
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. 背面カバー

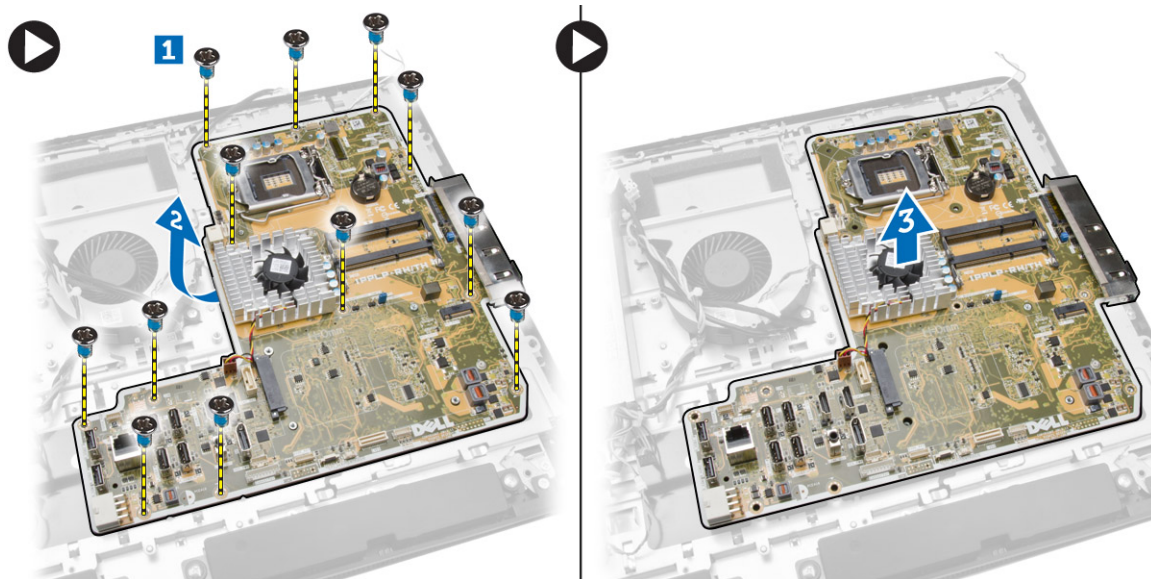
- e. 底部カバー
 - f. VESA スタンド
4. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

システム基板の取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
 - e. メモリ
 - f. オプティカルドライブ
 - g. ハードドライブ
 - h. ヒートシンクアセンブリ
 - i. 電源ユニット
 - j. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - k. コンバータボード
 - l. 電源ユニットファン
3. システム基板に接続されているケーブルをすべて外します。



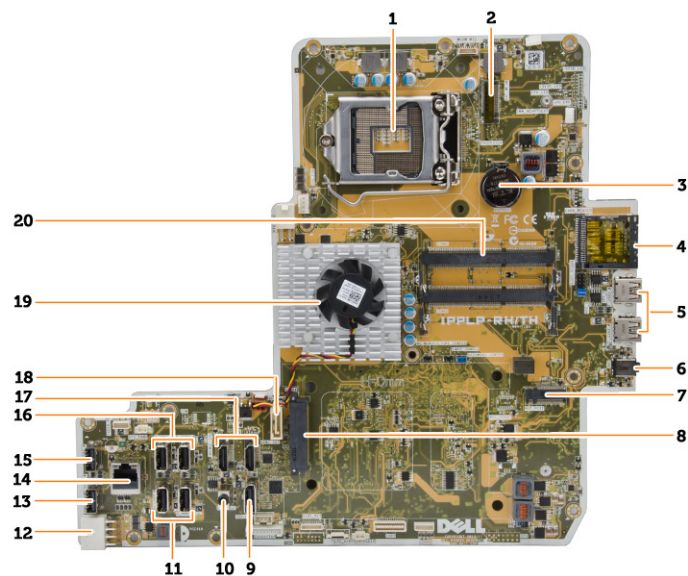
4. 図に示すように、以下の手順を行ってください。
- a. システム基板をコンピュータに固定しているネジを外します [1]。
 - b. システム基板をスライドさせてコンピュータから外します [2]。
 - c. システム基板を持ち上げて、コンピュータから取り外します [3]。



5. システム基板を持ち上げて、シャーシから取り外します。

システム基板のレイアウト

コンピュータのシステム基板のレイアウトを次の画像に示します。



1. プロセッサソケット
2. WLAN コネクタ
3. コイン型電池
4. メモリカードリーダー
5. USB 3.0 コネクタ
6. オーディオコネクタ
7. SATA コネクタ
8. SATA コネクタ
9. SATA コネクタ
10. SATA コネクタ
11. SATA コネクタ
12. SATA コネクタ
13. SATA コネクタ
14. SATA コネクタ
15. SATA コネクタ
16. SATA コネクタ
17. SATA コネクタ
18. SATA コネクタ
19. SATA コネクタ
20. SATA コネクタ

7. HCA カード
8. SATA HDD コネクタ
9. ディスプレイポート
10. ライン出力コネクタ
11. USB 3.0 コネクタ
12. 8 ピン電源コネクタ
13. USB 2.0 コネクタ
14. ネットワークコネクタ
15. USB 2.0 コネクタ
16. USB 3.0 コネクタ
17. HDMI コネクタ
18. SATA ODD コネクタ
19. ヒートシンク
20. メモリコネクタ (SODIMM ソケット)


システム基板の取り付け

1. システム基板をコンピュータ上に配置します。
2. システム基板にすべてのケーブルを接続します。
3. システム基板をベースパネルに固定するネジを締めます。
4. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. 電源ユニットファン
 - b. コンバータボード
 - c. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - d. 電源ユニット
 - e. ヒートシンクアセンブリ
 - f. ハードドライブ
 - g. オプティカルドライブ
 - h. メモリ
 - i. システム基板シールド
 - j. VESA マウントブラケット
 - k. 背面カバー
 - l. VESA スタンド
5. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

ディスプレイパネルの取り外し

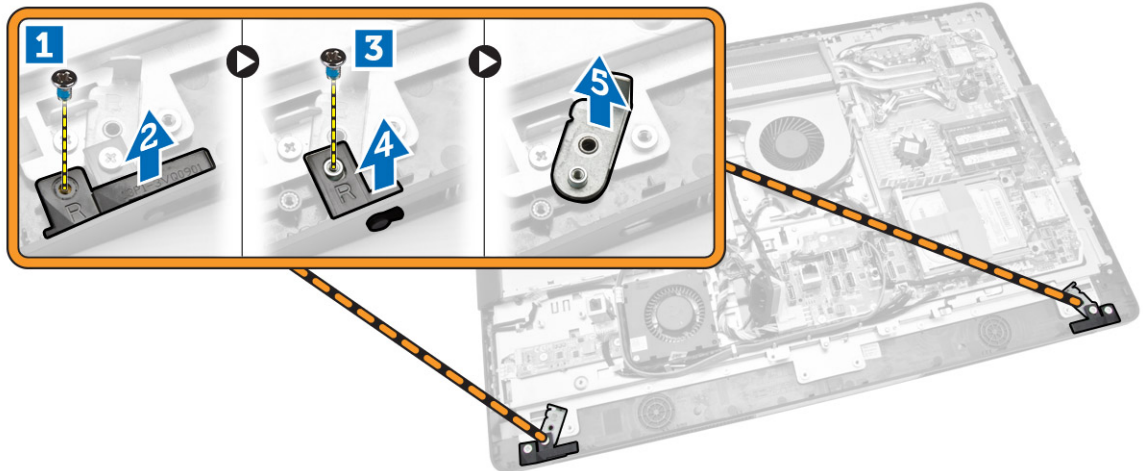
1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
 - e. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - f. WLAN カード

- g. オプティカルドライブ
- h. ハードドライブ
- i. インタージョンスイッチ
- j. 電源および OSD ボタンボード
- k. コンバータボード
- l. 電源ユニットファン
- m. 電源ユニット
- n. ヒートシンクアセンブリ
- o. プロセッサファン
- p. スピーカ
- q. スピーカカバー
- r. アンテナモジュール
- s. システム基板

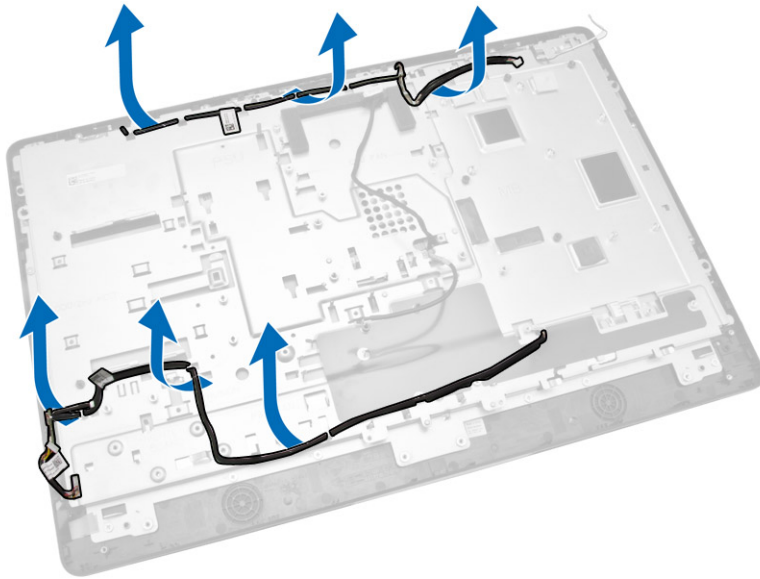
 **メモ:** これらの説明はハンズフリーコンピュータにのみ有効です。タッチコンピュータの場合は、ディスプレイパネルはクリーンルーム環境で分解してください。

3. 図に示すように、以下の手順を行ってください。

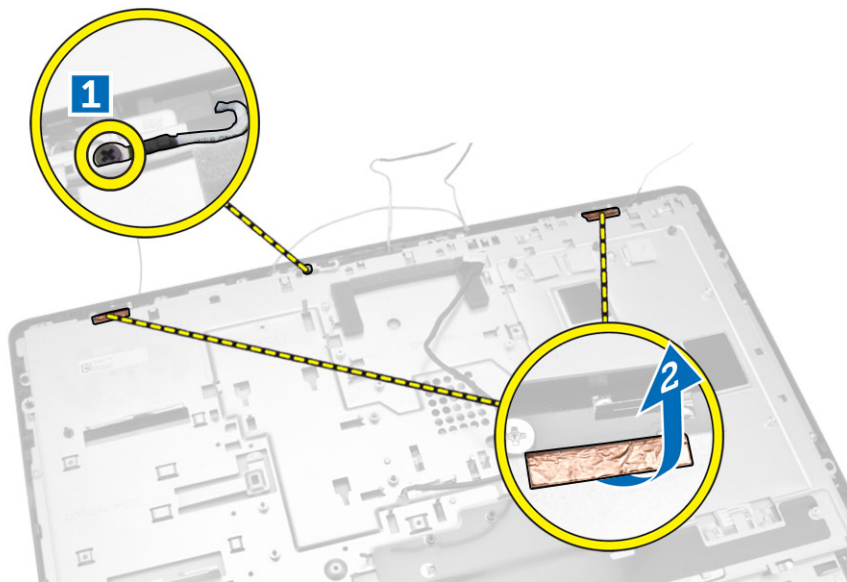
- a. リリースラッチホルダーをディスプレイパネルベースに固定しているネジを外します [1]。
- b. リリースラッチホルダーをディスプレイパネルベースから持ち上げて取り外します [2]。
- c. リリースラッチブラケットをディスプレイパネルベースに固定しているネジを外します [3]。
- d. リリースラッチブラケットをディスプレイパネルベースから持ち上げて取り外します [4]。
- e. リリースラッチロックブラケットを回転させて持ち上げ、ディスプレイパネルベースから取り外します [5]。



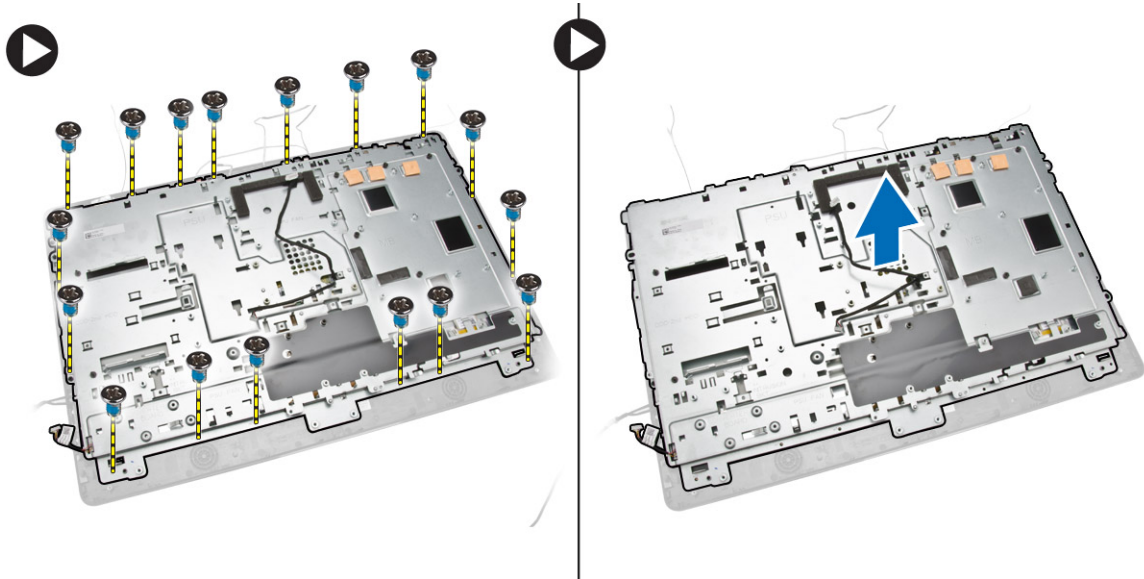
4. ディスプレイパネルのタブからすべてのケーブルを抜き取ります。



5. WEB GND ケーブルを固定しているネジを外します。ディスプレイパネルの両側からテープをはがします。



6. ベースパネルをシャーシに固定しているネジを外します。ディスプレイパネルベースをディスプレイベゼルから取り出します。



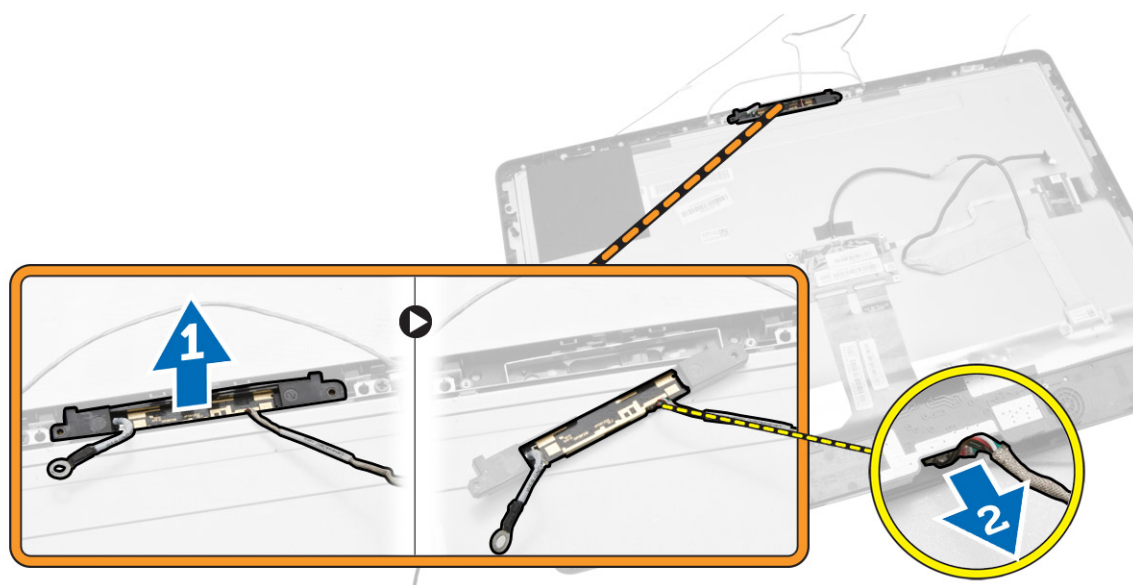
ディスプレイパネルの取り付け

1. ネジを締め、ディスプレイブラケットをディスプレイパネルに固定します。
2. ディスプレイパネルをシャーシにセットします。
3. ネジを締めて WEB GND ケーブルをシャーシに固定します。
4. ディスプレイパネルの両側にテープを貼りつけます。
5. すべてのケーブルをそろえてディスプレイパネルのタブに通します。
6. ネジを締めてラッチをコンピュータに固定します。
7. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. システム基板
 - b. アンテナモジュール
 - c. スピーカ
 - d. スピーカカバー
 - e. プロセッサファン
 - f. ヒートシンクアセンブリ
 - g. 電源ユニット
 - h. 電源ユニットファン
 - i. コンバータボード
 - j. 電源および OSD ボタンボード
 - k. インترلージョンスイッチ
 - l. ハードドライブ
 - m. オプティカルドライブ
 - n. WLAN カード
 - o. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - p. システム基板シールド
 - q. VESA マウントブラケット
 - r. 背面カバー
 - s. VESA スタンド

8. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

カメラの取り外し

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. 次のコンポーネントを取り外します。
 - a. VESA スタンド
 - b. 背面カバー
 - c. VESA マウントブラケット
 - d. システム基板シールド
 - e. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - f. WLAN カード
 - g. オプティカルドライブ
 - h. ハードドライブ
 - i. インテルーションスイッチ
 - j. 電源および OSD ボタンボード
 - k. コンバータボード
 - l. プロセッサファン
 - m. 電源ユニット
 - n. ヒートシンクアセンブリ
 - o. 電源ユニットファン
 - p. システム基板
 - q. ディ스플레이パネル
3. ラッチを持ち上げてスロットからカメラを外し、カメラケーブルを取り出せるようにします。カメラケーブルをカメラから外し、カメラをコンピュータから取り外します。



カメラの取り付け

1. カメラを所定のスロットに合わせます。
2. カメラケーブルを接続しラッチを固定します。
3. 次のコンポーネントを取り付けます。
 - a. ディスプレイパネル
 - b. システム基板
 - c. 電源ユニットファン
 - d. ヒートシンクアセンブリ
 - e. 電源ユニット
 - f. プロセッサファン
 - g. コンバータボード
 - h. 電源および OSD ボタンボード
 - i. インترلージョンスイッチ
 - j. ハードドライブ
 - k. オプティカルドライブ
 - l. WLAN カード
 - m. 入力 / 出力 (I/O) ボードシールド
 - n. システム基板シールド
 - o. VESA マウントブラケット
 - p. 背面カバー
 - q. VESA スタンド
4. 「コンピュータ内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

システムセットアップ

システムセットアップでコンピューターのハードウェアを管理し BIOS レベルのオプションを指定することができます。システムセットアップで以下の操作が可能です:

- ハードウェアの追加または削除後に NVRAM 設定を変更する。
- システムハードウェアの構成を表示する。
- 統合されたデバイスの有効 / 無効を切り替える。
- パフォーマンスと電力管理のしきい値を設定する。
- コンピューターのセキュリティを管理する。

起動順序

起動順序ではシステムセットアップで定義された起動デバイスの順序および起動ディレクトリを特定のデバイス (例: オプティカルドライブまたはハードドライブ) にバイパスすることができます。パワーオンセルフテスト (POST) 中に、Dell のロゴが表示されたら、以下の操作が可能です:

- <F2> を押してシステムセットアップにアクセスする
- <F12> を押して 1 回限りの起動メニューを立ち上げる

1 回限りの起動メニューでは診断オプションを含むオプションから起動可能なデバイスを表示します。起動メニューのオプションは以下の通りです:

- リムーバブルドライブ (利用可能な場合)
- STXXXX ドライブ
 - **メモ:** XXX は、SATA ドライブの番号を意味します。
- オプティカルドライブ
- 診断
 - **メモ:** 診断を選択すると **ePSA 診断** 画面が表示されます。


起動順序画面ではシステムセットアップ画面にアクセスするオプションを表示することも可能です。

ナビゲーションキー

以下の表ではセットアップユーティリティのナビゲーションキーを示しています。

- **メモ:** ほとんどのセットアップユーティリティオプションで、変更内容は記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

表 1. ナビゲーションキー

キー	ナビゲーション
上矢印	前のフィールドに移動します。
下矢印	次のフィールドへ移動します。
<Enter>	選択したフィールドに値を入力するか（該当する場合）、フィールド内のリンクに移動することができます。
スペースバー	ドロップダウンリストがある場合は、展開したり折りたたんだりします。
<Tab>	次のフォーカス対象領域に移動します。  メモ: 標準グラフィックブラウザ用に限られます。
<Esc>	メイン画面が表示されるまで、前のページに戻ります。メイン画面で <Esc> を押すと、未保存の変更を保存するプロンプトが表示され、システムが再起動します。
<F1>	セットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。

セットアップユーティリティのオプション


 **メモ:** お使いのコンピュータと取り付けられているデバイスによっては、このセクションに一覧表示された項目とは異なる場合があります。

表 2. 一般

Option	説明
System Information	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> システム情報 - BIOS バージョン、サービスタグ、アセットタグ、購入者タグ、購入日、製造日、エクスプレスサービスコードを表示します。 メモリ情報 - インストール済みのメモリ、使用可能なメモリ、メモリスピード、メモリチャンネルモード、メモリテクノロジー、DIMM A サイズ、DIMM B サイズを表示します。 PCI 情報 - SLOT 1、SLOT 2 を表示します。 プロセッサ情報 - プロセッサのタイプ、コア数、プロセッサ ID、現在のクロックスピード、最小クロックスピード、最大クロックスピード、プロセッサ L2 キャッシュ、プロセッサ L3 キャッシュ、HT 対応、および 64 ビットテクノロジーを表示します。 デバイス情報 - SATA-0、SATA-1、LOM MAC アドレス、ビデオコントローラ、dGPU ビデオコントローラ、オーディオコントローラ、Wi-Fi デバイス、Bluetooth デバイスを表示します。
Boot Sequence	コンピュータがオペレーティングシステムを認識する順序を変更することができます。起動順序を変更するには、右側にあるリストから変更したいデバイスを選択します。デバイスを選択したら、上下の矢印をクリックするか、またはキーボードの PgUp/PgDn キーを使用して、起動オプションの順序を変更します。左側にあるチェックボックスを使用してリストから選択または選択解除することもできます。レガシーオプション ROM でレガシー起動モードをセットアップすることができるようにする必要があります。安全起動を有効にしている場合、レガシー起動モードにすることはできません。オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Boot Sequence (起動順序) - デフォルトでは、Windows 起動マネージャのチェックボックスが選択されています。





Option	説明
	<p> メモ: デフォルトのオプションは、お使いのコンピュータのオペレーティングシステムに基づいて異なる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Boot List Option (起動リストオプション) - リストオプションは Legacy (レガシー) および UEFI です。デフォルトでは、オプション UEFI が選択されています。 <p> メモ: デフォルトのオプションは、お使いのコンピュータのオペレーティングシステムに基づいて異なる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Add Boot Option (起動オプションの追加) - 起動オプションを追加することができます。 • Delete Boot Option (起動オプションの削除) - 既存の起動オプションを削除することができます。 • View (表示) - 現在の起動オプションをコンピュータに表示することができます。 • Load Defaults (デフォルトをロード) - コンピュータのデフォルト設定を復元します。 • Apply (適用) - 設定を適用することができます。 • Exit (終了) - コンピュータを終了および開始します。
Advanced Boot Options	<p>UEFI 起動モードの場合、レガシーオプション ROM オプションを有効にすると、レガシーオプション ROM をロードできます。このオプションがない場合は、UEFI オプション ROM のみロードします。レガシー起動モードではこのオプションが必要です。安全起動を有効にしている場合は、レガシー起動モードは使用できません。デフォルトでは、レガシーオプション ROM を有効にする チェックボックスは選択されていません。その他のオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Load Defaults (デフォルトをロード) - コンピュータのデフォルト設定を復元します。 • Apply (適用) - 設定を適用することができます。 • Exit (終了) - コンピュータを終了および開始します。
Date/Time	<p>日付と時間を設定することができます。システムの日時変更はすぐに反映されます。</p>


表 3. System Configuration (システム設定)


Option	説明
Integrated NIC	<p>UEFI ネットワークスタックを有効にする場合、UEFI ネットワークプロトコルが利用可能になります。UEFI ネットワークによって前の OS と初期の OS のネットワーク機能で有効 NIC が使用可能になります。これは PXE の電源を入れずに使用することができます。Enabled w/PXE (PXE で有効) を有効にする場合、PXE 起動タイプ (レガシー PXE または UEFI PXE) は現在の起動モードおよび使用中のオプション ROM のタイプによります。UEFI ネットワークスタックは、UEFI PXE 機能を完全に有効化するうえで必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enabled UEFI Network Stack (UEFI ネットワークスタックを有効にする) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。 <p>統合ネットワークカードを有効または無効に設定することができます。以下のオプションから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効 • 有効

Option	説明
	<ul style="list-style-type: none"> Enabled w/PXE (PXE 付で有効) : このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 Enabled w/Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) <p> メモ: お使いのコンピューターおよび取り付けられているデバイスによっては、本項に一覧表示された項目の一部がない場合があります。</p>
SATA Operation	<p>統合 SATA ハードドライブコントローラの動作モードを設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Disabled - SATA コントローラーは非表示 ATA - SATA は ATA モード用に構成済み AHCI - SATA は AHCI モード用に構成済み RAID ON - SATA は RAID モードをサポートするように構成されます。このオプションはデフォルトで選択されています。
Drives	<p>各種オンボードドライブを有効または無効に設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> SATA-0 SATA-1
SMART Reporting	<p>このフィールドでは、内蔵ドライブのハードドライブエラーをシステム起動時に報告するかどうかを制御します。このテクノロジーは、SMART (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) 仕様の一部です。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enable SMART Reporting (SMART レポートを有効にする) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。
USB Configuration	<p>このフィールドでは、統合された USB コントローラーを設定します。 <i>Boot Support</i> (起動サポート) が有効の場合、システムはあらゆる種類の USB 大容量ストレージデバイス (HDD、メモリキー、フロッピー) を起動することができます。</p> <p>USB ポートが有効の場合、このポートに接続されたデバイスは有効であり OS で使用することができます。</p> <p>USB ポートが無効の場合、OS はこのポートに接続されたどのデバイスも認識できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enable Boot Support (起動サポートを有効にする) 背面 USB ポート - オプションで 6 つのポートを含む 背面 USB ポート - オプションで 2 つのポートを含む <p>すべてのオプションがデフォルトで有効に設定されています。</p> <p> メモ: USB キーボードおよびマウスは、この設定に関係なく BIOS セットアップで常に動作します。</p>
Audio	<p>統合オーディオコントローラーを有効または無効にできます。デフォルトでは Enable Audio (オーディオを有効にする) オプションが選択されます。このオプションには、次の機能が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> Enable Microphone (マイクを有効にする) Enable Internal Speaker (内蔵スピーカを有効にする)
OSD Button Management	<p>All-In-One システムの OSD (オンスクリーンディスプレイ) ボタンを有効または無効にできます。</p>

Option	説明
Miscellaneous Devices	<ul style="list-style-type: none"> • Disable OSD buttons (OSD ボタンを無効にする) - デフォルトではチェックされていません。 <p>各種オンボードデバイスを有効または無効に設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enable Camera (カメラを有効にする) - このオプションはデフォルトで選択されています。 • Enable Media Card (メディアカードを有効にする) - このオプションはデフォルトで選択されています。 • Disable Media Card (メディアカードを無効にする)

表 4. セキュリティ

Option	説明
Admin Password	<p>このフィールドでは、管理者 (admin) パスワード (セットアップパスワードと呼ばれる場合もある) を設定、変更、または削除します。管理者パスワードではいくつかのセキュリティ機能を有効にすることができます。ドライブにはデフォルトで設定されたパスワードはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enter the old password (古いパスワードを入力する) • Enter the new password (新しいパスワードを入力する) • Confirm the new password (新しいパスワードを確認する) <p>パスワードが正常に変更されるとすぐに反映されます。</p> <p> メモ: 管理者パスワードを削除すると、システムパスワードも削除されます。また、管理者パスワードを使用して HDD パスワードを削除することもできます。システムパスワード、または HDD パスワードがすでに設定されている場合は、管理者パスワードを設定することはできません。システムパスワードおよび / または HDD パスワードと一緒に管理者パスワードを使用したい場合は、先に管理者パスワードを設定する必要があります。</p>
System Password	<p>コンピューターのパスワード (以前プライマリパスワードと呼ばれていた) を設定、変更、または削除することができます。ドライブにはデフォルトで設定されたパスワードはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enter the old password (古いパスワードを入力する) • Enter the new password (新しいパスワードを入力する) • Confirm the new password (新しいパスワードを確認する) <p>パスワードが正常に変更されるとすぐに反映されます。</p>
Internal HDD-0 Password	<p>コンピューターの内蔵ハードディスクドライブ (HDD) のパスワードを設定、変更、または削除することができます。このパスワードが正常に変更されると、すぐに反映されます。</p> <p>ドライブにはデフォルトで設定されたパスワードはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enter the old password (古いパスワードを入力する) • Enter the new password (新しいパスワードを入力する) • Confirm the new password (新しいパスワードを確認する)

Option	説明
Strong Password	<p>このフィールドは強力なパスワードを強制的に実行します。</p> <p>Enable strong password (強力なパスワードを有効にする) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
Password Configuration	<p>このフィールドでは、管理者パスワードおよびシステムパスワードで使用できる最小および最大文字数を制御します。</p> <p>管理者パスワードおよびシステムパスワードで使用できる文字数は最小で 4 文字、最大で 32 文字です。</p> <ul style="list-style-type: none"> Admin Password Min (管理者パスワードの最小文字数) Admin Password Max (管理者パスワードの最大文字数) System Password Min (システムパスワードの最小文字数) System Password Max (システムパスワードの最大文字数)
Password Bypass	<p>システムの再起動時に <i>System Password</i> (システムパスワード) と内蔵 HDD パスワードの入力指示をスキップすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Disabled (無効) - パスワードが設定されると、システムおよび内蔵 HDD パスワード入力のダイアログが表示されます。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 Reboot Bypass (再起動時にスキップ) - 再起動時、パスワード入力のダイアログをスキップします (ウォームブート)。 <p> メモ: オフの状態から電源を入れると (コールドブート)、システムはシステムパスワードと内蔵 HDD パスワードの入力を常に指示します。また、モジュールベイ HDD がある場合でも、パスワードの入力が常に指示されます。</p>
Password Change	<p>管理者パスワードが設定されている場合、システムパスワードおよびハードディスクパスワードの変更を許可するかどうかを決定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Allow Non-Admin Password Changes (管理者以外のパスワードによる変更を許可) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
TPM Security	<p>このオプションでは、システムの TPM (Trusted Platform Module) を有効にし、オペレーティングシステムで認識されるようにするかどうかを制御します。</p> <p>TPM Security (TPM セキュリティ) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p> <p>TPM セキュリティ を有効にすると、次のオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> TPM ACPI サポート TPM PPI Deprivation Override Deactivate (非アクティブ化) Active (アクティブ化) クリア TPM PPI Provision Override の表示 <p> メモ: セットアッププログラムのデフォルト値を読み込んでも、起動、起動しない、および消去のオプションには影響しません。このオプションが変更されると、すぐに反映されます。</p>

Option	説明
Computrace (R)	<p>このフィールドでは、オプションの <i>Absolute Software</i> 社製 <i>Computrace Service</i> の BIOS モジュールインタフェースを起動または無効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Deactivate (非アクティブにする) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 • 無効 • Activate (アクティブ化)
Chassis Intrusion	<p>このフィールドでは、シャーシイントルージョン機能を制御します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イントルージョン警告をクリア - このオプションは有効およびオンサイレントオプションが選択されている場合に表示されます。このオプションはデフォルトで無効に設定されています。 • 無効 • Enable (有効) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 • On-Silent (オンサイレント)
CPU XD Support	<p>プロセッサの Execute Disable (実行無効) モードを有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enable CPU XD Support (CPU XD サポートを有効にする) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
Dell Encryption	<p>すべてのユーザー情報を、システムの暗号化に使用される Dell Encryption Accelerator (Dell 暗号化アクセラレータ) から永久的に削除することができます。カードがデータ保護または暗号化によって構成されていない場合、オプションは無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Clear Owner (オーナーをクリア) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。
OROM Keyboard Access	<p>起動中にホットキー経由で Option Read Only Memory (OROM)構成画面にアクセスするかどうか決定することができます。これらを設定することにより Intel RAID (CTRL+I) または Intel Management Engine BIOS Extension (CTRL+P/F12) へのアクセスができなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enable (有効) - ユーザーはホットキーを使用して OROM 構成画面を表示できます。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 • One-Time Enable (一時的に有効) - ユーザーは次の起動時にホットキーを使用して [OROM 構成] 画面を表示できます。起動後、設定は無効に戻ります。 • Disable (無効) - ユーザーはホットキーを使用して OROM 構成画面を表示することはできません。
Admin Setup Lockout	<p>管理者パスワードが設定されている場合、セットアップユーティリティを起動するオプションを有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enable Admin Setup Lockout (管理者セットアップロックアウトの有効化) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。
HDD Protection Support (HDD 保護のサポート)	<p>HDD 保護機能を有効または無効にすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HDD Protection Support (HDD 保護のサポート) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。

表 5. Secure Boot (安全起動)



Option	説明
Secure Boot Enable	<p>このオプションは安全起動機能を有効または無効にします。安全起動を有効にするには、コンピュータが UEFI 起動モードでありレガシーオプション ROM を有効にするオプションの電源をオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Disabled (無効) - このオプションはデフォルトで選択されています。 • 有効
Expert Key Management	<p>システムが Custom Mode (カスタムモード) の場合のみ、セキュリティキーデータベースを操作できます。 Enable Custom Mode (カスタムモードを有効にする) オプションはデフォルトで無効に設定されています。 Custom Mode Key Management (カスタムモードキー管理) オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PK - このオプションはデフォルトで選択されています。 • KEK • db • dbx <p>Custom Mode (カスタムモード) を有効にすると、PK、KEK、db、および dbx の関連オプションが表示されます。このオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Save to File (ファイルに保存) - ユーザーが選択したファイルにキーを保存します。 • Replace from File (ファイルから交換) - 現在のキーをユーザーが選択したファイルのキーと交換します。 • Append from File (ファイルから追加) - ユーザーが選択したファイルから現在のデータベースにキーを追加します。 • Delete (削除) - 選択したキーを削除します。 • Reset All Keys (すべてのキーをリセット) - デフォルト設定にリセットします。 • Delete All Keys (すべてのキーを削除) - すべてのキーを削除します。 <p> メモ: Custom Mode (カスタムモード) を無効にすると、すべての変更が消去され、キーはデフォルト設定に復元されます。</p>

表 6. パフォーマンス

Option	説明
Multi Core Support	<p>プロセスが 1 つまたはすべてのコアを有効にするかどうか指定します。コアを追加することでアプリケーションのパフォーマンスが向上する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • All (すべて) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 • 1 • 2
Intel SpeedStep	<p>プロセッサの Intel SpeedStep モードを有効または無効に設定することができます。このオプションはデフォルトで有効です。</p>
C-States Control	<p>プロセッサのスリープ状態を追加で有効または無効に設定することができます。このオプションはデフォルトで有効です。</p>

Option	説明
Limit CPUID Value	標準 CPUID 機能サポートの最大値を制限することができます。サポートされる最大 CPUID 機能が 3 を超えると、一部のオペレーションシステムのインストールが完了しません。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable CPUID Limit (CPUID 制限を有効にする) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。
Intel TurboBoost	プロセッサの Intel TurboBoost モードを有効または無効に設定することができます。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。 <ul style="list-style-type: none"> • Disabled (無効) - プロセッサのパフォーマンスステータスが標準以上に高くないよう、TurboBoost ドライバーを制御します。 • Enabled (有効) - TurboBoost ドライバによる CPU またはグラフィックプロセッサのパフォーマンス向上を許可します。
Hyper-Thread Control	Hyper-Threading テクノロジーを有効または無効に設定することができます。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
Rapid Start Technology	ユーザーが指定した時間が経ってスリープ中にシステムを低電力状態にすると、自動的にバッテリー寿命を伸ばすことができます。スリープ状態からの復帰時間が一部増加する場合がありますが、平均的な復帰時間は休止状態からの復帰よりも速くなります。タイマーは値を「0」にして始めるように設定できます。デフォルトで、このオプションは無効に設定されています。

表 7. 電源管理

Option	説明
AC Recovery	AC 電源損失後に、AC 電源を投入したときのコンピューターの動作を指定します。AC リカバリーを次のオプションに設定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • Power Off (電源オフ) (デフォルト) • 電源オン • Last Power State (直前の電源状態)
Auto On Time	このオプションでは、システムを自動的に起動する日時を設定します。時刻は標準の 12 時間形式 (時間 : 分 : 秒) です。時刻および A.M./P.M. フィールドに値を入力することで起動時刻を変更することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • Disabled (無効) - システムは自動的に電源オンになりません。このオプションはデフォルトで選択されています。 • Every Day (毎日) - システムは上記で指定した時刻に毎日電源がオンになります。 • Weekdays (平日) - システムは上記で指定した時刻に月曜日から金曜日に電源がオンになります。 • Select Days (日を選択) - システムは上記で選択した日の上記で指定した時刻に電源がオンになります。 <p> メモ: この機能は、電源タップのスイッチやサージプロテクタでコンピューターの電源をオフにした場合、または Auto Power (自動電源) が無効に設定されている場合は動作しません。</p>
Deep Sleep Control	ディープスリープを有効にするタイミングの制御を定義することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • 無効 • Enabled in S5 only (S5 のみで有効)


Option	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • Enabled in S4 and S5 (S4 と S5 で有効) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
Fan Control Override	<p>システムファンのスピードをコントロールします。このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p> <p> メモ: 有効にすると、ファンは最大速度で動作します。</p>
USB Wake Support	<p>このオプションでは、USB デバイスでコンピューターを待機状態からウェイクさせることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enable USB Wake Support (USB ウェイクサポートの有効化) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
Wake on LAN / WLAN	<p>特殊な LAN 信号でトリガーされると、電源オフの状態からコンピューターを起動させることができるオプションです。スタンバイ状態からのウェイクアップはこの設定の影響を受けず、オペレーティングシステムで有効にされている必要があります。この機能は、コンピューターを AC 電源に接続している場合にのみ有効です。このオプションはデフォルトで無効に設定されています。</p>
Block Sleep	<p>このオプションでは、オペレーティングシステムの環境でスリープ (S3 状態) に入るのをブロックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Block Sleep (S3 state) (ブロックスリープ (S3 状態)) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。
Intel Smart Connect Technology	<p>このオプションはデフォルトで無効に設定されています。オプションが有効の場合、機能はシステムがスリープ中に近くのワイヤレス接続を定期的に感知します。スマート接続はコンピューターがスリープ状態になっている時に開かれた E メールやソーシャルメディアアプリケーションを同期化します。</p>

表 8. POST Behavior (POST 動作)

Option	説明
Numlock LED	<p>システム起動時に NumLock 機能を有効にするかどうか指定します。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</p>
Keyboard Errors	<p>起動時にキーボード関連のエラーを報告するかどうか指定します。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</p>
Fastboot	<p>いくつかの互換手順を飛ばして起動処理を速めます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Minimal (最小) • Thorough (詳細) - このオプションはデフォルトで選択されています。 • 自動
MEBx Hotkey	<p>コンピューターの起動時に MEBx ホットキー機能を有効にするかどうかを指定します。このオプションはデフォルトで有効に設定されています。</p>

表 9. Virtualization Support (仮想化サポート)

Option	説明
Virtualization	このオプションでは、インテル・バーチャライゼーション・テクノロジーが提供する付加的なハードウェア機能を VMM (Virtual Machine Monitor) で使用できるようにするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable Intel Virtualization Technology (Intel 仮想化テクノロジーの有効化) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
VT for Direct I/O	ダイレクト I/O 用に Intel® Virtualization テクノロジーによって提供される付加的なハードウェア機能を仮想マシンモニター (VMM) が利用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Enable Intel Virtualization Technology for Direct I/O (Direct I/O 向け Intel VT の有効化) - このオプションはデフォルトで有効に設定されています。
Trusted Execution	このオプションでは、Intel Trusted Execution テクノロジーが提供する付加的なハードウェア機能を、MVMM (Measured Virtual Machine Monitor) で使用できるかどうかを指定します。この機能を使用するには、TPM 仮想化テクノロジーと Direct I/O 用仮想化テクノロジーを有効にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • Trusted Execution (トラステッドエグゼキューション) - このオプションはデフォルトで無効に設定されています。

表 10. Wireless (ワイヤレス)







Option	説明
Wireless Device Enable	内蔵ワイヤレスデバイスを有効 / 無効にすることができます。オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • WLAN/ WiGig • Bluetooth 両方のオプションがデフォルトで有効に設定されています。

表 11. メンテナンス

Option	説明
Service Tag	コンピュータのサービスタグを表示します。
Asset Tag	アセットタグがまだ設定されていない場合、システムアセットタグを作成することができます。このオプションはデフォルトでは設定されていません。
SERR Messages	SERR メッセージのメカニズムをコントロールします。このオプションはデフォルトで設定されていません。SERR メッセージのメカニズムが無効になっていることが必要なグラフィックスカードもあります。

表 12. クラウドデスクトップ

Option	説明
Server Lookup Method	このオプションでは、クラウドデスクトップによるサーバーアドレスの検出方法を指定します。オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Static IP (静的 IP) - 静的 IP アドレスを使用します。

Option	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • DNS - ドメインネームシステム (DNS) プロトコルを使用して複数の IP アドレスを取得します。このオプションはデフォルトで選択されています。 <p> メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Server Name	<p>このオプションでは、サーバーのサーバー名を指定します。</p> <p> メモ: このオプションは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合と、サーバーの検索方式が DNS に設定されている場合のみ利用可能になります。</p>
Server IP Address	<p>このオプションでは、クライアントのソフトウェアが通信するクラウドデスクトップサーバーの主要な静的 IP アドレスを指定します。デフォルトのサーバー IP アドレスは 255.255.255.255 です。</p> <p> メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Server Port	<p>このオプションでは、クライアントのソフトウェアが通信するクラウドデスクトップの主要な IP ポートを指定します。デフォルトのサーバーポート値は 06910 です。</p> <p> メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Client Address Method	<p>このオプションでは、クライアントによる IP アドレスの入手方法を指定します。このオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Static IP (静的 IP) - 静的 IP アドレスを使用します。 • DHCP - 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用して IP アドレスを取得します。このオプションはデフォルトで選択されています。 <p> メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Client IP Address	<p>このオプションでは、クライアントの静的 IP アドレスを指定します。デフォルトの IP アドレスは 255.255.255.255 です。</p> <p> メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。</p>
Client Subnet Mask	<p>このオプションでは、クライアントのサブネットマスク IP アドレスを指定します。デフォルトの IP アドレスは 255.255.255.255 です。</p>

Option	説明
	 メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。
Client Gateway	<p>このオプションでは、クライアントのゲートウェイ IP アドレスを指定します。デフォルトの IP アドレスは 255.255.255.255 です。</p>  メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。
DNS IP address	<p>このオプションでは、クライアントの DNS IP アドレスを指定します。デフォルトの IP アドレスは 255.255.255.255 です。</p>  メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。
Domain Name	<p>このオプションでは、クライアントのドメイン名を指定します。</p>  メモ: このオプションは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合と、クライアントのアドレス方式が静的 IP に設定されている場合のみ利用可能になります。
Advanced	<p>このオプションでは、詳細なデバックのため Verbose Mode (冗長モード) をオンにします。このオプションはデフォルトでは無効に設定されています。</p>  メモ: このオプションでは、System Configuration (システムの設定) グループの Integrated NIC (統合 NIC) コントロールが Enabled with Cloud Desktop (クラウドデスクトップで有効) に設定されている場合のみ、利用可能になります。


表 13. System Logs (システムログ)

Option	説明
BIOS events	<p>システムイベントログを表示し、そのログを消去することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ログのクリア

BIOS のアップデート

システム基板を交換する場合やアップデートが入手できる場合は、お使いの BIOS (セットアップユーティリティ) のアップデートを推奨しています。

1. コンピュータを再起動します。
2. dell.com/support にアクセスします。
3. サービスタグやエクスプレスサービスコードを入力し、送信をクリックします。

 **メモ:** サービスタグを見つけるには、**Where is my Service Tag? (サービスタグの検索)** をクリックします。


 **メモ:** サービスタグが見つからない場合は、**Detect My Product (マイプロダクトの検出)** をクリックします。画面上の説明に進みます。


4. サービスタグの検索または検出ができない場合、コンピュータの製品カテゴリをクリックします。
5. リストから **Product Type (製品のタイプ)** を選択します。
6. お使いのコンピュータモデルを選択すると、そのコンピュータの**製品サポート**ページが表示されます。
7. **Get drivers (ドライバを取得)** をクリックし、**View All Drivers (すべてのドライバを表示)** をクリックします。
Drivers and Downloads (ドライバおよびダウンロード) ページが開きます。
8. ドライバおよびダウンロード画面で、**オペレーティングシステム**ドロップダウンリストから **BIOS** を選択します。
9. 最新の BIOS ファイルを選んで**ファイルをダウンロードします**をクリックします。
アップデートが必要なドライバを分析することもできます。お使いの製品でこれを行うには、**Analyze System for Updates (アップデートが必要なシステムの分析)** をクリックし、画面の指示に従います。
10. 希望のダウンロード方法を以下から選択してくださいウィンドウで希望のダウンロード方法を選択し、**Download File (ファイルのダウンロード)** をクリックします。
ファイルのダウンロードウィンドウが表示されます。
11. ファイルをコンピュータに保存する場合は、**保存**をクリックします。
12. **実行**をクリックしてお使いのコンピュータに更新された BIOS 設定をインストールします。
画面の指示に従います。


システムパスワードおよびセットアップパスワード

システムパスワードとセットアップパスワードを作成してお使いのコンピュータを保護することができます。

パスワードの種類	説明
システムパスワード	システムにログオンする際に入力が必要なパスワードです。
セットアップパスワード	お使いのコンピュータの BIOS 設定にアクセスして変更をする際に入力が必要なパスワードです。


 **注意:** パスワード機能は、コンピュータ内のデータに対して基本的なセキュリティを提供します。

 **注意:** コンピュータをロックせずに放置すると、コンピュータ上のデータにアクセスされる可能性があります。

 **メモ:** お使いのシステムは、出荷時にシステムパスワードとセットアップパスワードの機能が無効に設定されています。

システムパスワードおよびセットアップパスワードの割り当て

パスワードステータスが**ロック解除**の場合に限り、新しいシステムパスワードやセットアップパスワードの設定、または既存のシステムパスワードやセットアップパスワードの変更が可能です。パスワードステータスが**ロック**に設定されている場合、システムパスワードは変更できません。

 **メモ:** パスワードジャンプの設定を無効にすると、既存のシステムパスワードとセットアップパスワードは削除され、システムへのログオン時にシステムパスワードを入力する必要がなくなります。


システムセットアップを起動するには、電源投入または再起動の直後に <F2> を押します。

1. システム BIOS 画面またはシステムセットアップ画面で、システムセキュリティを選択し、<Enter> を押します。
システムセキュリティ画面が表示されます。
2. システムセキュリティ画面でパスワードステータスがロック解除に設定されていることを確認します。
3. システムパスワードを選択してシステムパスワードを入力し、<Enter> または <Tab> を押します。
以下のガイドラインに従ってシステムパスワードを設定します。
 - パスワードの文字数は 32 文字までです。
 - 0 から 9 までの数字を含めることができます。
 - 小文字のみ有効です。大文字は使用できません。
 - 特殊文字は、次の文字のみが利用可能です：スペース、(")、(+), (.), (-), (.), (/), (:), (|), (\), (|), (^)。プロンプトが表示されたら、システムパスワードを再度入力します。
4. 入力したシステムパスワードをもう一度入力し、OK をクリックします。
5. セットアップパスワードを選択してシステムパスワードを入力し、<Enter> または <Tab> を押します。
セットアップパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。
6. 入力したセットアップパスワードをもう一度入力し、OK をクリックします。
7. <Esc> を押すと、変更の保存を求めるメッセージが表示されます。
8. <Y> を押して変更を保存します。
コンピュータが再起動します。

既存のシステムパスワードおよび/またはセットアップパスワードの削除または変更

既存のシステムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを削除または変更する前にパスワード状態がロック解除(システムセットアップで)になっていることを確認します。パスワード状態がロックされている場合、既存のシステムパスワードまたはセットアップパスワードを削除または変更することはできません。

システムセットアップを入力するには、電源投入または再起動の直後に <F2> を押します。

1. システム BIOS 画面またはシステムセットアップ画面で、システムセキュリティを選択し、<Enter> を押します。
システムセキュリティ画面が表示されます。
2. システムセキュリティ画面でパスワードステータスがロック解除に設定されていることを確認します。
3. システムパスワードを選択し、既存のシステムパスワードを変更または削除して、<Enter> または <Tab> を押します。
4. セットアップパスワードを選択し、既存のセットアップパスワードを変更または削除して、<Enter> または <Tab> を押します。
 **メモ:** システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを変更する場合、プロンプトが表示されたら新しいパスワードを再度入力してください。システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを削除する場合、プロンプトが表示されたら削除を確認してください。
5. <Esc> を押すと、変更の保存を要求するメッセージが表示されます。
6. <Y> を押して変更を保存しシステムセットアップを終了します。

コンピューターが再起動します。

仕様



 **メモ:** 提供される内容は地域により異なる場合があります。コンピュータの構成の詳細を確認するには、スタート  (スタートアイコン) → ヘルプとサポート の順にクリックし、お使いのコンピュータに関する情報を表示するオプションを選択してください。

表 14. システム情報

機能	仕様
プロセッサのタイプ	<ul style="list-style-type: none"> Intel デュアル / クアッドコア Intel コア i3/i5/i7 シリーズ
キャッシュ合計	プロセッサのタイプに応じて最大 8 MB キャッシュ
チップセット	Intel Q87 Express チップセット

表 15. メモリ

機能	仕様
種類	最大 1600 MHz、バッファリング無し non-ECC、デュアルチャネル DDR3L 構成
コネクタ	内部アクセス用 DDR3L SODIMM ソケット (2)
容量	4 GB および 8 GB
最小メモリ	4 GB
最大メモリ	16 GB

表 16. ビデオ

機能	仕様
ビデオコントローラ (内蔵)	内蔵 Intel HD グラフィックス 4600 (第 4 世代 Core i5/i7 DC/QC CPU)、2GB AMD Radeon™ R7 A265 (オプションの外付けビデオソリューション)
Video Memory (ビデオメモリ)	共有メモリ
外部ディスプレイサポート	ディスプレイポート、HDMI 出力、および Wi-Fi ディスプレイ


 **メモ:** Wi-Fi ディスプレイにはワイヤレスカード (別途購入) が必要です。

表 17. オーディオ


機能	仕様
コントローラ	Waves MaxxVoice Pro 搭載 Intel ハイデフィニッションオーディオ
スピーカー	左右両スピーカアセンブリの単一 4 Ω スピーカ (チャンネル当たり平均 4 W)
内蔵スピーカアンプ	1 チャンネルあたり 4Ω で最大 7.6 W
内蔵マイク対応	デジタルマイク
ボリュームコントロール	ボリューム上/下ボタン (Windows 7 のみ)、プログラムメニュー、およびキーボードメディアコントロールキー
	 警告: イヤホンまたはヘッドフォンからの過度の音圧は、聴力の損傷または損失の原因になる場合があります。ボリュームコントロールおよびイコライザの設定を中間位置以外に調節すると、イヤホンまたはヘッドフォンの出力電圧のみならず、音圧レベルも上がる可能性があります。イヤホンまたはヘッドフォンの出力を左右する要因として、製造元 (例えばオペレーティングシステム、イコライザソフトウェア、ファームウェア、ドライバなど) が指定したものの意外を使用すると、イヤホンまたはヘッドフォンの出力電圧のみならず、音圧レベルも上がる可能性があります。製造元が指定した以外のイヤホンまたはヘッドフォンを使用すると、音圧レベルが上がる可能性があります。

表 18. 通信

機能	仕様
ネットワークアダプタ	システム基板上の Intel 10/100/1000 Mbps Ethernet LAN
Wireless (ワイヤレス)	<ul style="list-style-type: none"> M.2 2230 カード コンボ M.2 カード (Intel Wireless 7260 M.2 PCIe WLAN カード (802.11n/ac) Bluetooth 搭載)

表 19. カード

機能	仕様
M.2 スロット	2 <ul style="list-style-type: none"> 3030 ソケット 1 3042 ソケット 2

表 20. ディスプレイ

機能	仕様
種類	23 インチ full-HD WLED
最大解像度	1920 x 1080

機能	仕様
リフレッシュレート	60 Hz
輝度	輝度上 / 下ボタン
動作角度	178° 水平 / 178° 垂直
ピクセルピッチ	0.2652 mm
制御	オンスクリーンコントロール

表 21. Drives

機能	仕様
ハードドライブ	2.5 インチ SATA ハードドライブ (1)、またはアダプタブラケット付 2.5 インチ SATA ドライブ (1)  メモ: デュアルハードドライブをサポートします。
オプティカルドライブ (オプション)	DVD-ROM SATA ドライブまたは DVD+/-RW SATA ドライブ

表 22. ポートとコネクタ

機能	仕様
オーディオ :	<ul style="list-style-type: none"> • 背面のライン出力コネクタ (1) • 側面のグローバルヘッドセットポート (1)
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ (1)
USB 2.0 (前面 / 背面 / 内部)	0 (側面) / 2/3
USB 3.0 (前面 / 背面 / 内部)	2 (側面) / 4/0
ビデオ	ディスプレイポート (1)
HDMI	<ul style="list-style-type: none"> • 19 ピン出力ポート (1) • 19 ピン入力ポート (1)
メディアカードリーダー	4-in-1 スロット (1)

表 23. 電源

機能	仕様
185 W PSU	
周波数	47 ~ 63 Hz
電圧	90 ~ 264 VAC
入力電流	最大 2.6 A (AC 低範囲) 最大 1.3 A (AC 高範囲)

表 24. カメラ (オプション)

機能	仕様
イメージ解像度	2.0 メガピクセル
ビデオ解像度	FHD (1080 p)
斜め可視角度	74 度

表 25. スタンド

機能	仕様
傾き	-5 ~ 30 度

表 26. 外形寸法

機能	仕様
幅	567.50 mm (22.34 インチ) - スタンドなし
高さ	380.70 mm (14.99 インチ) - スタンドなし
奥行き :	
タッチスクリーンなし	60.00 mm (2.36 インチ) - スタンドなし
タッチスクリーン付き	58.60 mm (2.31 インチ) - スタンドなし
重量 :	
タッチスクリーンなし	12.5 kg (27.56 ポンド) - スタンドあり
タッチスクリーン付き	14.1 kg (30.89 ポンド) - スタンドあり



メモ: コンピュータの重量は、発注時の構成や製造上の条件により異なる場合があります。

表 27. コントロールおよびライト


機能	仕様
電源ボタンライト	白色のライト - 白色の点灯は、電源オンの状態を示します。白色の点滅は、コンピュータがスリープ状態であることを示します。
ハードドライブ動作ライト	白色のライト - 白色の点滅は、コンピュータがハードドライブからデータを読み取っている、またはハードドライブにデータを書き込んでいることを示します。
カメラ LED	白色のライト - 白色の点灯は、カメラがオンになっていることを示します。
背面パネル :	
リンク保全ライト (内蔵ネットワークアダプタ上) :	<p>緑色 - ネットワークとコンピュータとの間で 10 Mbps の接続が良好であることを示します。</p> <p>緑色 - ネットワークとコンピュータとの間で 100 Mbps の接続が良好であることを示します。</p>

機能	仕様
	<p>橙色 – ネットワークとコンピュータとの間で 1000 Mbps の接続が良好であることを示します。</p> <p>オフ（消灯） – コンピュータはネットワークに物理的に接続されていることを検出していません。</p>
ネットワーク動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色のライト – 黄色の点滅は、ネットワークが動作していることを示します。
電源ユニット診断ライト	緑色のライト – 電源が入っており、機能していることを示します。電源ケーブルは電源コネクタ（コンピュータの背面）とコンセントに接続してください。

表 28. 環境

機能	仕様
温度範囲：	
稼働時	0°C ~ 35°C (50 ~ 95°F)
保管時	-40 ~ 65 °C (-40 ~ 149 °F)
相対湿度（最大）：	
稼働時	20 ~ 80 %（結露しないこと）
保管時	20 ~ 80 %（結露しないこと）
最大振動：	
稼働時	5 ~ 350 Hz で 0.26 GRMS
保管時	5 ~ 500 Hz で 2.2 GRMS
最大衝撃：	
稼働時	40 G
保管時	45 G
高度：	
稼働時	0 ~ 5,000 m (0 ~ 16,404 フィート)
保管時	0 ~ 5,000 m (0 ~ 16,404 フィート)
空気中浮遊汚染物質レベル	G2、または ANSI/ISA-S71.04-1985 が定める規定値以内

デルへのお問い合わせ

 **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国 / 地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. dell.com/support にアクセスします
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの上部にある 国 / 地域の選択 ドロップダウンメニューで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。